

令和4年3月

あ い さ つ — 研究紀要発刊に寄せて —

公益社団法人 川崎市幼稚園協会
会 長 鈴木 伸司

今年も皆様に一年間の研修のまとめ、『研究紀要』をお届けする時期となりました。

平素は公益社団法人川崎市幼稚園協会の研修、研究活動にご理解、ご協力を頂き心より感謝申し上げます。まずは、紀要をそのまま書棚の肥やしにせず開いてお読み頂いていることにお礼申し上げます。どうぞページをめくって一年間の川崎の研修記録をご覧下さい。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に悩まされた今年度も、石渡研修部長を筆頭に協会研修部理事及び研修部員の先生方には、加盟各園の先生方のニーズを考慮しつつ、教職員の資質の向上を目指し、今日的な課題に対応する様々な研修メニューを用意し熱心に協会の研修、研究活動を展開して頂きました。加えて年間の研修が終わった後に、この紀要の編集、校正作業を進めて下さり、ようやく発刊に至りました。年間を通して実施された5つの継続研究会と2つの教員研修会、そして新任教職員研修会や研修大会でお世話になった講師の先生方には、川崎の幼児教育のため熱心なご指導を頂き有難うございます。また、各研修に携わられた研修部員の皆様、そして園務の忙しい中、やり繰りをしてご参加いただいた教職員の皆様、また、何より快く先生方を送り出してくれた園長先生にも心よりお礼申し上げます。

感染者数が激増した9月の継続研修会は残念ながら中止と致しました。けれども、その後の研修会は無事に実施することが出来て、1月の幼児教育研修大会も分科会を含めて、リモート併用の形で何とか開催出来ました。研修部員の皆様は、様々な形で感染症対策を講じる等、今までには無いご苦勞が多かったことでしょう。参加された各園の教職員の皆さんに代わり、心よりお礼申し上げます。

各園でも、特に3学期になりオミクロン株の流行の頃から園児の感染が急増し、市内の加盟園でも臨時休園や学級閉鎖が相次いでいました。子どもたちの園生活の場を保障してあげたいという気持ちと園内での感染拡大を阻止する方策との板挟みとなり、先生方も本当に悩みが多い一年間だったことと拝察致します。

願わくは、一日も早く感染症のことを気にすることなく、園児が遊びや園生活に没頭できる日が来てほしいと思います。今後とも、幼稚園協会はコロナに負けずに市内の幼児教育の充実と質の向上を目指し充実した研修、研究活動を続けていくことをお誓いし、発刊のご挨拶と致します。

紀要発刊によせて

～令和3年度 研修活動を振り～

公益財団法人 川崎市幼稚園協会
研修部長 石渡 宏之

令和3年度研修紀要の発刊にあたりまして、協会加盟園の園長先生を始め、研修を支えて頂いた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。更に川崎市こども未来局の皆様のご理解、ご協力、お力添えに心より感謝申し上げます。

令和元年度末から始まった新型コロナウイルス感染による影響は本年もつづき、令和3年度の研修は〔9月〕〔宿泊研修〕の実施を感染対策として断念しました。

本年度も会場内の密を下げるために〔各会場の収容定員〕の半数程度を受講対象人数とさせて頂きました。受講希望は多くありましたが、各園で調整頂き受講定員に収まるようご協力頂きました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。

また、研修大会の基調講演では川崎協会では初めてとなる〔講師の遠隔講義〕〔対面受講〕〔遠隔受講〕のハイブリッド講習を試みました。こちらも各園にご協力頂き、実施することができました事にお礼申し上げます。

今年度の研修事業でも、回数は例年より縮小することになってしまいましたが、「幼児期の教育」の大切さが今まで以上に関心が高まっている事からも、幼児教育・保育の質をより高める事は、私たち現場教職員にとって大切な事と考えます。幼稚園協会の研究・研修会では専門分野の講師にご協力頂き、幼稚園協会として提供しうる学びと情報の発信をこれからも継続して参ります。

本年度も慎重な状況にも関わらず、研修の実施にご尽力下さった講師の皆様と、教職員を派遣して下さった園長先生方、そして多忙の中にも関わらず「打ち合わせ」「準備」「運営」と担って頂きました研修部員の皆様に深くお礼申し上げます。

また、「幼稚園ナビ」を活用した受講システムの運用も順調に利用頂けて居りますことを有り難く存じます。

加盟園の園長先生をはじめとして多くの受講者の皆様にご協力いただいた事で、皆様の研修記録を「研修ハンドブック」だけでなく電子情報として保持出来るようになっております。

これによって研修記録が守られます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

当協会の研修を受講される皆様におきましては、講師から多くの事を学ぼうとする意欲ある姿、学んだことを保育で実施しようとしている姿勢を強く感じ、研修を支える担当として嬉しく思っています。

最後に、改めてたくさんのご指導を頂きました講師の先生方、研修部員の皆様に心より感謝申し上げますと共に、公益社団法人川崎市幼稚園協会研修会の活動成果をご報告申し上げ、各園の研修にお役立て板だけましたら幸いに存じます。

おそらく次年度も引き続き感染症対策を継続することになるかと考えます。研修会場の見直し、受講者人数の圧縮、健康状況の確認などに留意し、保育現場で活かされる研修を提供していきたいと考えます。

次年度以降、遠隔（zoom）講座を実施する事が想定されます。〔一人に一台の接続機器〕や〔園内のWiFi環境〕の構築など、ご配慮頂けたらとご案内致します。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

1. 第 62 回川崎市幼児教育研修大会

日程及び内容

分科会

1月19日(水) 於 各会場

準備/受付	分科会研究発表並びに協議会
9:00	9:20
	11:50
第1分科会 『特別支援教育』	研究責任者 佐保田 ともこ/会場 ユニオンビル
⑦①③	『一人ひとりの子どもの育ちを支援するために』 『子ども達のコミュニケーション力を育てる配慮』
第2分科会 『子どもと共に育つ保育者』	研究責任者 薄井 珠預/会場 川崎市総合自治会館
⑦①③	『子どもと共に育つ保育者になるために』 『人間性豊かな保育者になるために』
第3分科会 『3歳児』	研究責任者 上村 瑞枝/会場: 川崎市総合福祉センター (エポックなかはら)
⑦①③	『3歳児の世界をのぞいてみよう』—子どもの見方・捉え方・関わり方— 『3歳児の1年間の育ちと4歳児に向けて』
第4分科会 『幼児教育・10年教諭』	研究責任者: 山口 倫/会場: 川崎市高津市民館
⑦①③	『今、保護者に伝えてゆくべき重要なこと—その方法論も含めて』
第5分科会 『経験者教諭』	研究責任者 鈴木 淳/会場 川崎市国際交流センター
⑦①③	『計画につながる幼児理解 ～「?」から始めよう～』
第6分科会 『新任教諭』	研究責任者 平岡 義章/会場 川崎市国際交流センター
⑦①③	『リズムにノッテ楽しむ幼児の器楽表現 —リズム奏法とイメージ奏法—』

全体会

1月19日(水) 於 川崎市総合福祉センター (エポックなかはら) ホール

受付	開会	式典	休憩	記念講演	講師 前田 裕二 先生 (SHOWROOM 株式会社 代表取締役社長)	閉会
13:20	13:45		15:00	15:15	『ぼくの見てきた [セカイ] のはなし』	16:15
						16:30



式典プログラム



司会 小島 哲史

開 会 式 典

国歌斉唱
物故者に対する黙祷

一同

挨拶 川崎市幼稚園協会会長 鈴木 伸司
神奈川県私立幼稚園連合会会長 小澤 俊通

永年勤続表彰
受賞者代表謝辞 伊藤 悠貴
受賞者代表

祝 辞 川崎市長 福田 紀彦 様
川崎市議会議長 橋本 勝 様
川崎市幼稚園父母の会連合会会長 原 典之 様

来賓紹介 多田 政彦
(祝電披露)

記 念 講 演

講師 前田 裕二 先生 (SHOWROOM 株式会社
代表取締役社長)

テーマ 「ぼくの見てきた [セカイ] のはなし」

閉 会

実行委員長 嶋崎 正浩



第62回 川崎市幼児教育研修大会

第1分科会 特別支援教育研究会

月 日 令和4年1月19日(水)

場 所 ユニオンビル

講 師 塚越 和子先生

(療育コンサルタント・保育士)

テーマ：「一人ひとりの子どもの育ちを支援するために 一子ども達のコミュニケーション力を育てる配慮」

俯瞰図番号 E 2-Ⅲ

◎私たちが会おう気になる子ども達

- ・コミュニケーションが苦手で自分から相手に伝えることがうまくない
- 大人側の配慮としては、何がわからないのか探る、知識を高める
- 但し療育の専門家ではないので幼稚園現場で対応ができることとできないことを選別する

◎指さし行動について

- ・コミュニケーションの道具→発語と関係あり
- ・指さしは4段階
- ①興味あるもの ②要求したい時
- ③共感する時 ④応答する時

◎コミュニケーションとは

- ・人への興味→人へ伝えたい気持ちの育ち
- ・音声言葉（音声言語）+言葉を使わない言語（うなずきや表情など）=コミュニケーションの成立

○指さしや言葉が出ない子どもの場合は

→行動を言葉に置き換えて想像する

◎コミュニケーション力を育てる時の注意特徴

- ・大人は子どもの苦手やむずかしいことを知る
- 状況判断や周囲に合わせた調整は苦手なので指示は具体的に出す
- 自分で考えて、みんなは〇〇しているよ等の指示はNG

◎コミュニケーション力を育てる配慮

- ①同じ場所や同じ手順を心がける
→衣服や持ち物を置く場所を決める、支度や服の着脱など取り組む順番を同じにする
- ②同時に2つ以上のことを言わない
→一度に1つの指示にする、絵や写真の指示を添えるとよりわかりやすい
- ③簡単に短い言葉で指示やお願いを伝える
→曖昧な言い方や長い説明は避ける
- ④見通しが持てるようスケジュールを伝える
→視覚教材を有効に使用し貼っておくとよい

◎社会性に繋がる言葉あそび

- ①しりとり（短期記憶、語彙力の確認）
 - ②逆さ言葉（短期記憶）
 - ③じゃんけん言葉あそび（数や勝負の理解）
 - ④なぞなぞ（言葉の概念の理解、質問の記憶）
- あそびの中で言語能力が読み取れる

◎おたずね FAX から学ぶ

例①服やマスクが汚れてしまい交換を促すがこれがよいと拒否をされてしまう場合

→考えられる対応方法

- ・今のマスクとまったく同じ新しいものを提示する
- ・新しいマスクに対象児の好きな絵をかく
- ・好きなマスクの下に新しいマスクをする
- ・暫く時間をおいてから再対応してみる など

例②愛着のある玩具があり片づけの時間になってもその玩具を手放さず片づけられない場合

→安心できるものを取り上げず、対象児専用の片づけカゴを対象児の椅子に掛けてそのカゴへ片づけるよう促す
椅子にカゴがあると離席が減る効果も考えられる

例③絵本を読む時間に読みたい本が決まってお
り人気の絵本だから他児に取られないよう
事前に予約すると主張してくる場合

第1分科会

→読みたい気持ちを肯定しつつ他にも読みたい人があることも伝える
読みたい人みんなと一緒に見る、もしくは順番に読むならば視覚タイマーなどを使用して待つことを促す

例④対象児へ担任からの声かけや注意が多いことでクラスの園児まで対象児を注意する回数が多くなってしまった場合

- 子どもたちは日常の担任の言動や対象児への接し方をよく見ている
子どもたちとそのことについて向き合う時間を取る
- ・子どもたちの対象児に対しての気持ちや何を不思議に思っているのか探る
 - ・子どもたちの気持ちは受け止め否定しない
 - ・対象児が頑張っていることを話す
 - ・必要な時はお手伝いをする話を話す

例⑤発音の不明瞭さがあり、本人は気にせず話しているが他児からは何を言っているかわからないと言われてしまう場合

- 吃音に関しては5歳頃までに治療の判断をする必要がある
- ・吃音は育て方のせいではない
 - ・2～4歳頃から始まる
 - ・問題が吃音のみでない場合はまず全体発達を押し上げてから言葉の治療に入ることがよい
 - ・吃音の相談先は小児科、耳鼻咽喉科、言語聴覚士

○家庭でできる主なサポート

- ・急がずゆっくり、たびたび間を取って話かける
- ・子どもの話に耳を傾け、話を聞いているよ、という姿勢を伝える
- ・うなずき、同感や同意をして話しやすい雰囲気をつくる

◆参考文献◆

- ・自閉症スペクトラムのある子を理解して育てる本
田中哲・藤原里美（東京都立小児総合医療センター）監修 2020 Gakken
- ・発達に気になる乳・幼児のこころ育て、ことば育て
有川宏幸 著 2015 ジアース教育新聞
- ・2歳からはじめる自閉症児の言語訓練
子どもの世界マップから生まれる伝え方の工夫
藤原加奈江 著 2006 診断と治療社

第62回 川崎市幼児教育研修大会
 第2分科会 子どもと共に育つ保育者研究会
 月 日 令和4年1月19日(水)
 場 所 川崎市総合自治会館
 講 師 齋藤 正典先生
 (相模女子大学教授・認定子ども園相模女子大学幼稚部園長)
 テーマ:「人間性豊かな保育者になるために」
 俯瞰図番号 B6-I

高めていくことが大切。

○保育者の人間性としてのコミュニケーション
 「怒る」とは→対話ではなく支配
 「叱る」とは→善悪・正解を厳しく伝える
 ↓
 どちらも「コミュニケーション」ではない。「コミュニケーション」とは分かち合う・共有すること。

○保育者の専門性と人間性
 全国保育士倫理綱領 前文より
 ・保育を实践すること、子育てを支援することよりよい社会をつくることに貢献すること。
 →保育士の仕事として行うこと
 1、子どもの最善の利益の尊重
 2、子どもの発達補償
 3、保護者との協力
 →保育者の仕事として、子どもの人権を保障し実現していくこと。(ユニセフ子どもの権利条約)
 4、プライバシーの保護
 5、チームワークと自己評価
 6、利用者の代弁
 7、地域の子育て支援
 8、専門職としての責務

○コミュニケーションと対話
 ・真理・言葉の共有:ディアロゴス
 →相手を説き伏せる、納得させる、論破する。
 ・思いや気持ちの共有:コミュニケーション
 →どちらが正しいではなく、どれだけ思いや気持ちを共有するか。
 ●保育者に必要な対話は、ディアロゴスではなくコミュニケーションベースのもの

○専門職として保育者に必要な資質・能力
 ・人間性:保育者として他者から見て魅力的。
 ・専門性:知識や技能を持ち、他者や社会に役立てている。
 ・自立性:行動を自分で決定でき、責任を負うことができる。

○IメッセージとYOUメッセージ
 相手の行動を直接責めない・自分の気持ちとして伝える・肯定的な言葉を使う

○保育者とは、対人援助専門職
 ・教育、保育を实践して行く中で最も影響すること→人間関係(子ども、保護者、職員など)
 ・よりよい人間関係を築かないと、よい指導・支援ができない→コミュニケーションの質を

○保育者に求められるコミュニケーション能力
 ①聞く
 1、相手の話を素直に聞く:偏見を持って話を聞かない。
 2、聞いた話を鵜呑みにしない:いろいろな視点から捉えていく。
 3、聞いた話に対して自分の考えをまとめる。
 4、聞くモードになる。
 5、自分のことは話さない。

②話す
 1、話しやすい環境づくり。(対職員・対保護者・対子ども)
 2、「話す」ときの表情や姿勢。
 3、「話す」における伝達力を高める。
 4、相手を否定せず、自分の思いや考えとして話す。(Iメッセージとして)

第2分科会

5、自分経験に基づいている話か、エビデンスに基づいている話か。

○自己達成的予言

- ・人々がある状況を、(間違っていたとしても)それが現実であるとする、結果としてそれが現実になってしまう。

↓

思い込みや信念が、社会的勢力として機能する。

○ピグマロン効果とゴーレム効果

この子どもは善い子で、伸びていくと信じている子どもは本当に伸びていくが、(ピグマロン効果)悪い子であると捉えている子どもは本当に伸びていかない。(ゴーレム効果)

○人間関係のためのスキル

- ・ソーシャルスキル(社会的スキル)の内容
1、受容 2、社会的刺激の意味の処理 3、表現 4、社会的相互作用の維持

○保育者としての人間性として何が重要か

- ・他者に対して愛情深く優しい。
- ・他者を尊重する。←人権の尊重
- ・他者を信じていることができる。←教師期待
- ・他者のために何かしようとする。
- ・常に相手のことを考えられる。←対人援助

第62回 川崎市幼児教育研修大会

第3分科会 3歳児研究会

研究主題 「のぞいてみよう 3歳児の世界と
一年の育ち」～子どもの見方・捉
え方・関わり方～

月 日 令和4年1月19日(水)

会 場 エポック中原

講 師 長瀬 薫先生 木暮 真紀先生
(公財) 幼少年教育研究所 発達と保
育研究会)

テーマ:「3歳児の1年間の育ちと4歳児に向
けて」

俯瞰図番号 B2-1

1. この時期の子どもの姿

- ・子どもたち同士の関わりが増えた
- ・遊びが展開できるようになった
- ・身の回りの支度が自分の力で済ませられるようになった
- ・喧嘩などのトラブルが起こった時、保育者が介入しなくても解決できるようになった
- ・自分の意思を伝えられるようになった
- ・様々なことが話し合いで解決できるようになった

2. 一年間の育ちの振り返り

◎第1期 不安と混乱期(4～5月)

- ①感覚的な遊び
- ②認識の不足(上履きの破棄違いなど)
- ③言葉の不足
- ④友達のつながりが薄い
- ⑤体力がない
- ⑥転びやすい
- ⑦手や指のコントロールが出来ない
(ハサミ・ボタン掛け)
- ⑧変化に弱い
(ちょっとしたことに対応できずパ
ニック)
- ⑨自己中心的
- ⑩アミニズム
- ・3才児は何故泣く?

生活の変化、時間の流れの違い、人
間関係、母子分離の不安

・子どもの心の変化

受容→安定→気持ちが楽になる→自
己解放→周りの世界を受け入れる

VTR視聴

- ・初めての登園(保育者の傍で泣きじゃくっ
ている。保育者が手をつなぎ、身支度を促すが
泣き続ける)
- ・水でぐちゃぐちゃ(長靴で泥んこの中へ入り、
足踏みをしたり、小走りをしたり感触を楽し
んでいる)

◎第2期 自己発揮(5月・6月)

- ①保育者に受け入れられることで安心し、
興味関心が出てきて遊びたいものが出て
くる。自分の遊びたいものを見つけて遊
べるようになる。
- ②自分の世界に没頭して遊び込む。
- ③遊びや遊びの時の気分が長続きしない。
- ④友達と並行遊びを楽しむ。友達の中にい
ることが楽しい。
- ⑤友達への気づき。(遊びを通して他の子ど
もの遊びに興味を持つ)
- ⑥トラブル多発。自己発揮の子どもは周り
の迷惑を考えない。
- ⑦五感を通して遊ぶ(音楽・水遊び)遊び
込めることが大切。
- ⑧神出鬼没で自己解放すると色々なところ
で遊べるようになる。探索行動。
- ⑨コミュニケーション言語の未発達。

VTR視聴

- ・水場で水をジャー(複数の友達で、何度も
ジョーロで水場に水を入れている。)
- ・新聞遊び(部屋で新聞紙をびりびりに破き投
げたり、箱の中に集めてから中に入り遊ぶ。)

◎第3期 自己主張(7・8・9)

- ①ぼくがわたしが1番→相手に認めてもら
いたい。
- ②言葉が多くなる。
- ③友達に何かをしてあげたい気持ちがでて

第3分科会

くる。

- ④自己主張期はケンカが増える。
- ⑤みんなの前でわざと汚い言葉を使ったり、ふざけたりする。
- ⑥周りのことが気になる。
 - ・自己主張とは、自分を人に知ってもらいたい。認めてもらいたいという欲求は、人間の根元的なものだから幼児期に自己主張する必要がある。
 - ・「オレが1番」とは（無意識に）自分の存在を認めて欲しいという欲求。「ここに私がいます」初めての集まりの時に声が大きくなる。服装が奇抜。
 - ・「アイデンティティ」の確立とは「自己を確立する」「自分と他者と比べてどういう違いがあるのかを理解する」こと。人は人間関係の中でしか成長できない。
 - ・自己主張とは人の中で自分を出してゆくこと→だから集団のいる幼稚園が必要。

VTR視聴

- ・ケンカ（女兒がアイロン掛けをしている。そこへ、一人の女兒が来て、無理矢理に持って行ってしまう。保育者が持って行ってしまった子どもに、「貸して」となどを伝えることを提案したり、ほかの女兒がじゃんけんすることを提案するが、受け入れることができない。しばらくたって、やっと「貸して」と伝えることができ、取られてしまった女兒も「いいよ」と答え、貸すことができた。）
 - ・あのね（おやつの時間。食べながら夏休みの思い出を思い思いに保育者に伝える。中には、保育者を誘う姿も見られる。）
- ◎第4期 仲間意識期（10・11・12月）
- ①安心感
 - ②細かい指先（バランスが良くなってきた）
 - ③言葉の意味が分かる
 - ④楽しいが増えた
- ・「見立て・つもりあそび」から「ごっこあそびへ
 - 2歳児…積み木を自動車に「見立て」、猫

になった「つもり」で遊ぶ2歳児の遊びを「見立てあそび」「つもりあそび」という。この中で創り出した虚構世界を集団で共有して遊ぶ活動を「ごっこあそび」という。

↓

子ども達は知らない間に「役」を決め、「せりふ」を語り始める。

↓

3歳児のごっこあそびは、見立て・つもりの気分が響き合い、場を共有形で展開される。

↓

4歳児のごっこあそびは、ストーリーを共有して遊ぶようになる。

↓

勿論そこにはシナリオなどは存在しないのだが、そこで頼りになるのは、相手の頭の中で生じているストーリーをおもしろがりつつ、自分の頭の中でストーリーを作り出すといった、かなり高度な作業を瞬時に行う能力になる。

- ・イメージの共有→共感、思いやり

VTR視聴

- ・組体操（男児3名が時折立ち位置を変えながら年長児の組体操の真似をしている。）
- ・芋くばり（蒸かし芋を数名で食べている。残り一個の芋しかなく、ほとんどの子どもがおかわりをしたい。そこで、保育者が一人の女兒に分けることを託し、女兒は自分のフォークで小さく分ける。その間、ほかの友だちは、その様子を見ながら待っている。切り終えたあと配ってもらった。）
- ・劇遊び（子どもがオオカミ役と子ヤギ役に分かれて、それぞれの役に保育者が1名ずつかわり「オオカミと七ひきの子ヤギ」の劇あそびをしている。保育者が中心となり、役になりきって劇あそびを楽しんでいる。）

◎第5期 自己充実期（1月～3月）

- ①安定した仲間関係
- ②物事の因果関係や物事の見通しがつくよう

になる

③言葉が豊かになる

④技術の向上

⑤経験すること全てのことをおもしろがり、

「自信と誇り」に満ちた自分を表現しながら生きる姿といえる。

・出来そうもないことにも「ボクデキル」と自信たっぷりに宣言する。

・5歳児がコマ回しに挑戦する姿を見れば「ボクモ」と手を出したりする。

・根拠のない自信に裏付けされながら、とにかく思い浮かんだことは何でもできそうな気がするよう。→「有能感・万能感」と共に生きる3歳児

・人間として全ての力が大きく育つ3歳児。
→世界を論理的に整理する力、物語に感情移入してストーリーを生きる力。これらを大きく伸ばし、発達しているのが3歳児。

・4歳児になると次第に「できること・できないこと」がみえてくる。

・「願望や理想の世界」と「現実の自分」とのギャップに悩みそれを調整することが調整課題になってくる。そして、その葛藤を克服する過程で個性（心）の原理が創られていく。

VTR視聴

・かるた取りⅠ（手作りの文字のないかるたで数名が遊んでいる。読み手は、絵を見ながら、イメージに合う言葉を言う。保育者が見本を見せた後、女兒が読み手になる。中には、取り方を友だちに教える姿が見られる。）

・かるた取りⅡ（数名の友だちが輪になり、かるた取りをしているが、一人の男児が自分が取れないのは、たくさん取っている男児のせいだと言いながら大声で訴えている。その様子を友だちは見守っている。中には、自分のハンカチで涙を拭う女兒の姿も見られる。）

3、3歳を過ぎた子ども達

・自己発揮する子ども達（興味の赴くまま

に、満足感と手応え)

・友達と関わる子ども達（人との関係性を築く、自己と他者を認識する、社会性を育む)

4、4歳児に向けて

・進級への期待が高まる…憧れと期待

・複雑な心模様…不安と緊張と切なさ

・自信過剰でお調子者…その自信はどこから？

・保育者は、4月から関わり方が停滞していることがある。子どもの姿に合わせた関わり方が大切。

・子ども達の目的に合わせた関わり方をする。

・保育者とは？

敏感に…丁寧に深く

適切に…対応

上品で…品格を持つ ではなくてはならない

第4分科会

第62回 川崎市幼児教育研修大会

第4分科会 幼児教育・10年教諭研究会

月 日 令和4年1月19日(水)

場 所 国際交流センターレセプションルーム

講 師 上原 文先生

(精神保健福祉士・日本データ社会福祉研究所副所長・教育福祉相談室長)

テーマ：「気になる子の未来のために

—私たちは何を—

俯瞰図番号 F 1 - III

2015年から継続してきた川崎幼児研究会の

目的と内容

○この研修の大きな意義

- 1 診断名がついていない前
- 2 その子どもを含めた幼児教育の見直し
- 3 保育者の技術の向上
- 4 子どもたちの救い

リアクションペーパーの振り返り

- ・ 講義で理論を学び、保育に取り入れるようにした。子どもの姿に変化が見られ、保育者として成長できた。
- ・ 1対1の関わる時の背景などの工夫をした。
- ・ 自分の感覚を信じて、今できることを考えるようにした。
- ・ 担任との相談で保護者への伝え方を方法論を取り入れるようにした。
- ・ 担任になると真剣になりすぎて熱くなってしまうことがあったので気をつけるようにした。
- ・ 身支度などの着替えをできたと思える体験ができるように関わり方を工夫した。
- ・ ピアノを弾きながら子どもたちを見られるように練習するようになった。
- ・ 子どもたちの理解を考え、あらためて保育を見直した。
- ・ 椅子の位置を工夫することで離席が減った。

- ・ 保護者に寄り添いながら、伝えたいことをいうようにした。(健診未受診のことなど)
- ・ 癖やこだわりについて、園全体の共通理解が必要。
- ・ 失敗感から始めるより、達成感から始めることが大切。

推測されるこの子どもたちの未来

A 反社会的罪悪感なし

→暴力団

B 非社会的状態

→ひきこもり、ホームレス、家庭内暴力

C 社会適応できている

- 1 本人の力 (かわいがられる)
- 2 保護者、主に母親の適応力
- 3 支える人がいた (保育者がなる)

社会適応のために必要なものとは

1 生活のリズム

—安定した毎日をおくするため

☆精神的

☆コンスタンスに健康を保つ

☆突発的なことがあっても立ち直れるように

☆午前中の活動ができるように

2 身近なこと (自分でできること)

—生活習慣

・ 自分でできなくてもどういう支援があればできるのか

→信号がわからなかったら信号のない道を探す等

3 問題行動がないこと

・ なくす方向がよい

4 余暇が過ごせること（過ごせるものがあること）

- ・ 過ごせるものを見つけておく
- 水泳、字を書く、何気ない時間を過ごす
※ 幼稚園でのトラブルは何気ない時間が多い

5 失敗感ではなく、自己肯定感を

未来のことは乳幼児期が基本

- ・ 専門機関につながりにくい。またつながったとしても・・・
- 診断名が見つからないときからの支援が必要である。

○ 保育者の精神保健について

身体の疲れとの違い

《身体の疲れ》

- ・ 睡眠をとる

《精神や心の疲れ》

- ・ 疲れていることと離れたことをする

例) 好きな紅茶を飲む、ジョギングをする、
等

☆ 心と身体を整えて子どもたちに笑顔で・・・

この子たちの未来のために

あなたが必要です。

第5分科会

第62回 川崎市幼児教育研修大会

第5分科会 経験者教諭研究会

月 日 令和4年1月19日(水)

場 所 自治会館大会議室1～3

講 師 村石 理恵子先生

(東京女子体育短期大学

児童教育学科 准教授)

テーマ:「計画につながる幼児理解～「?」から始めよう～」

俯瞰図番号 B2-II

○ものごとを理解しようとしたときに、環境や人によって見方や考えが異なってくる。

・ワーク1でイヌとウサギをかいた。

各個人により、上記の絵をかく人もいれば、漢字を書いた人もいた。村石先生は、イヌのぬいぐるみを搔いていた。

→解釈の仕方が個人によって違う。(かいた・書いた・搔いた)

例・『朝廊下を走っている子どもを見た』

保育者1…ほかの子どもとぶつかる可能性があり『注意した』

保育者2…張りきって登園していると感じ取り『元気に挨拶をした』

同じ状況でも、受けとり方や、行動の理解によって解釈がまったく異なってしまう。

○幼児理解

・いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように…etc

行動の理解から、気持ちの理解へつなげていくことが大切である。

例1 飼育小屋に入り込み、ウサギの入っていた穴に入ろうとする子どもがいる。

→ウサギになってみようと思った。

例2 ニワトリに『ティラ』と名づけていた子どもがいた。

→理由を聞くと、足を観察した結果、恐竜の足に類似していることに気づき、ティラノサウルスの名前をとって『ティラ』と名づけていた。

・『?』こそチャンスであり、理解することが共感的な対応につながる。

・1人1人の理解が、集団の理解になり、計画へとつながっていく。

○1人1人の理解。

・記録を書く ・疑問を持つ

・行動を見る ・肯定的な見方

をすることで、理解しやすくなる。

・保育者は学級のなかで、個人を理解している必要がある。個人の記録などをつくっていくうえで、それが学級全体の工夫や計画につながる。

例 ウェブ型記録、環境図記録

→学級として、ねらいを立てて評価する。

・科学の知(仮説)と臨床の知(経験)をふまえて実践する。

・ワーク2で泣いている子どもの顔をかいた。

次に、泣いている理由をいくつか書いた。

理由のなかから、実際に見たことのある場面に印をつけた。

印をつけた場面のほうが多い保育者が多かった。

→経験している場面を見ているということが、ワーク2での想像に結びついている。

・同件事象でも、喜びの感情なのか悲しみの感情なのか、共感的な理解があれば、適切な対応ができる。

○まとめ

- ・保育という臨床の場に必要なもの。
 - 1. 保育技術（みずからも環境となる専門の『技』）
 - 2. 他者の内面を理解し、自分が自分でいられるような関係をつくる『業』
 - 上記2点の『技』と『業』を行う『からだ』をめざすこと。
-
- ・子どもの理解にもとづいて、受容から共感的な関係の世界をつくるカウンセリングマインド。
(保育の場に生じる現象を1人1人にとって意味のある保育にしていく)
-
- ・子どもと自分がつくり出す状況を理解し、よりよい保育のために何をするかを考え、行動すること。
-
- ・1人1人の『?』に対し『理解を深める』という態度が大切である。

第6分科会

第62回 川崎市幼児教育研修大会

第6分科会 新任教諭研修会

月 日 令和4年1月19日

会 場 国際交流センター

テーマ リズムにノッテ楽しむ

幼児の器楽表現

－2つの柱(リズム奏法とイメージ奏法)を意識して－

講 師 細田 淳子

(東京家政大学 児童学科 教授)

俯瞰図番号 E2-1

音楽表現で育てたいもの

審美性：自然や芸術の本来の美しさを感じることのできる力

自発性：他から言われて行うのではなく、感じ考えて、自分なりに行動できる力

創造性：人の真似ではなく自分の考えで新しいものを作り出せる力

おはようのうた

歌いながら曲に合わせて歩きまわり“おはよう”のところで近くの人とハイタッチをする。

紙コップで音あそび

楽器だと、コロナ禍では、他人が触った物をまた他の人が使うのは難しいので、紙コップを使うのが良い。たくさん遊んで、持ち帰れば良い。

①紙コップを2つ使って音探し

目標10種類

・底を叩く・2つのコップをこする・重ねて叩く・机の上で叩く などなど

②見つけた音発表→みんなで模倣

③2人組で会話→思いついた音を使い、おしゃべりしましょう。

(紙コップで音を出して)

④曲に合わせて鳴らす→

歌いながら見つけた音をいろいろ使って

(世界中の子ども達)

・好きに音を鳴らすと楽しい。

③と④の違いは拍子があるかないか

まとめ

楽器あそびには、リズム奏法：拍子に合わせるものと、イメージ奏法：イメージに合わせて自由に創造的に鳴らす方法の2通りがある。楽器あそびの時には、どちらをやっているかを保育者は、意識することが大事。

リズム奏法のいいこと

リズムパターンの模倣を優しいものから順に積み上げる。全員が楽にできるようになったら、一部だけ変えた似たパターンを混ぜるを繰り返す。器楽合奏も基本は、オスティナート(リズムパートを繰り返す)を重ねて行くと子どもにも保育者にも無理がない。

いろいろなリズムを覚えなくてよく、負担がない。

イメージ奏法のいいこと

基本的に子どもの出した音を否定せず、すべて入れられる。いいね。ふーん。かっこいいね。リズム奏法は間違えたら直さないといけませんがこちらには、間違いという概念がない。

楽器を手にする

リズム楽器(カスタネット、タンブリン、スズ、トライアングル)

カスタネットー戦後日本人が作った楽器

初めは、自由に持たせ、好きに叩かせる。

音を止める時のポーズだけ知らせる。

カスタネットのマーチ

- ・最初の4小節は自由に歩きまわる。
- ・「いち・に」のところは自分のカスタネットを叩く。
- ・「ともだちみつくて」のところから、相手を探して輪を作り「わのわのわわわ」で相手のカスタネットを叩く人数をだんだん増やして遊ぶ。

スズ

- ・振れば簡単に音が鳴る。手に持って手首を叩いて音を出してもよい。

タンブリン

- ・厚さがあるので、子どもには持ちづらい。
- ・持ち手のあるタンブリンもある。

トライアングル

- ・昔は一辺が30cm程の大きい物しかなかった。大きい物は、子どもには合わないので小さい物（15cm位の物）を使用する。

合奏曲の作り方

- ・曲を選ぶ、使用楽器の数を決める
- ・それぞれの音の色を決める
(マーカーペンの色)
- ・どこをどの楽器が叩くか決める
楽譜にその楽器の色を分けてぬる
- ・ソロで叩くところを決める
- ・全員で叩くところも決める

質問

怒鳴ってうたってしまいます。どうしたら優しくうたえますか。

- 優しく歌えた時にたくさん誉める。
ゆれながら歌うと力がぬけて、怒鳴りづらい。

音程をつけるためにはどうしたらよいか。

- わらべ歌をたくさん歌うと音程が付きやすい。

紙コップ以外に楽器の代用にできるもの

- 新聞等
まるめたり、ヒラヒラさせたり

発表会練習を繰り返し練習してあきないようにするにはどうしたらよいか。

- 楽しいと子どもの方からもう1回練習したいと言うようになる。オスティナートを取り入れて、少し簡単にして子どもの負担を減らしてみる。

初めて教える歌のよい方法

- よい方法は1つでない。歌によって違う。
CDを流しておいて、初めは耳から慣らしておく。曲の内容を教える。初めに踊ってみる等いろいろ工夫してみる。

記念講演

第 62 回 川崎市幼児教育研修大会

記念講演

月 日 令和 4 年 1 月 1 9 日 (水)

場 所 川崎市総合福祉センター

講 師 前田 裕二 先生

(SHOWROOM株式会社

代表取締役社長)

テーマ：「ぼくの見てきた [セカイ] のはなし」

SHOWROOM は、日本で初のライブ配信サービスを行った会社です。ギフトイング (有料・無料アイテムでの応援文化) をインターネット上で初めてもたらしました。現在 600 万人以上の利用があり、誰もが平等に活躍でき、夢に挑戦しています。今求められる人材は、キングからナイトの時代。鬼滅の刃の炭治郎のような強さと優しさを備えた人。自分の事だけでなく、仲間の事や相手の気持ちも想像できる。そして強い仲間と共に何かを成し遂げられる関係を築ける人です。また、強さとは思考力・世の中の真実を見つめる目です。そして、幼児期に必要なものは知的な事より「愛情」に尽きます。家族・先生からの「強い愛」があれば、園児が中高生になり、強さを身につけなければいけない時に踏ん張れます。人間力をこのタイミングで養えるかどうかは彼らの将来的な優しさと強さに繋がります。愛情や人間的な胆力などを育てるためには、あふれ出るくらい愛情を実感して育つ事です。前田先生の人生で一番大きな影響を与えたことのひとつが、幼稚園時代とおっしゃっていました。優しさと強さ溢れる前田先生ご自身の体験を通して学んできたことをお話頂きました。

2. 継続研究会

○ 特別支援教育研究会	19
○ 子どもと共に育つ保育者研究会	25
○ 3歳児研究会	34
○ 幼児教育・10年教諭研究会	42

特別支援教育研究会

研究経過

講師 塚越和子先生
(療育コンサルタント・保育士)

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	5月19日(水)	「特別支援教育の意味と私たちの役割」	D 1 - I	20
2	6月16日(水)	「園生活を穏やかにおくるための配慮」	E 4 - I	19
3	9月15日(水) ※中止	「家庭と園の連携」	D 3 - II	/
4	10月20日(水)	「この時期の現状と今後の課題」	E 7 - 1	18
5	11月17日(水)	「今までの取り組みを振り返る」	E 7 - II	19
6	1月19日(水)	「子ども達のコミュニケーション力を育てる配慮」	E 2 - III	15

◆研究指定園 (20 園)

江川幼稚園	若宮幼稚園	ゆりかご幼稚園	大師幼稚園
サクラノ幼稚園	宮内幼稚園	田園調布学園大学みらいこども園	諏訪幼稚園
若竹幼稚園	川崎めぐみ幼稚園	梶ヶ谷幼稚園	有馬白百合幼稚園
初山幼稚園	さぎぬま幼稚園	丸山幼稚園	菅幼稚園
宿河原幼稚園	柿の実幼稚園	川崎青葉幼稚園	こうりんじ幼稚園

第1回 特別支援教育研究会

月 日 令和3年5月19日(水)

場 所 エポックなかはら

講 師 塚越 和子先生

(療育コンサルタント・保育士)

テーマ：「特別支援教育の意味と私たちの役割」

俯瞰図番号 D1- I

◎はじめに

- ・年々、気になる子どもたちが増えている
- ・いままでの経験を活かしても対応がむずかしい子どももいる
- ・困った時は担任のみで抱え込まず、周囲に相談してみんなで対象児を支援していけるとよい

◎気になる行動や障がいはどう考えるか

- ・肯定的な支援をすることで対象児の気になる特性が弱まることをめざす
そのために
- ①子どもとの信頼関係を築く
- ②対象児に合った保育目標を立てて取り組む
→達成がむずかしい場合は振り返りを行う
EX) 目標が高すぎるのではないか、子どもの特性に合っていないのではないか等
- ・特性は弱まっても消えることはないことを念頭におく

◎どうして気になる行動があらわれるのか

- ・脳の基盤に生まれつきの違いがある
- ・脳の基盤+環境要因=気になる行動が出現
→行動そのものを抑制させるのではなく、どの環境要因が気になる行動を誘発させたのか原因やきっかけを探り対処法を考える
但し危険を伴う行動はとめること

◎気になる子どもたちに気づいたら

- ・すぐに配慮を始める
- ・診断名の見きわめなどに固執せず、対象児が毎日生活しやすいように生活習慣を身につけ

ることから始める

EX) 食事・排泄・服の着脱・荷物の扱いなど

→幼稚園ですべてを請け負うのではなく、保護者の協力も得て家庭でも取り組んでもらう

◎関わり方の基本

- ①大人と一緒にやる
- ②限定した場面から始める
- ③一度に1つから教える
- ④望ましい行動を認める、ほめる
- ⑤必ず成功体験で終わる
→次の学びに結びつく
仮に成功しなくても頑張りをほめる
- ・子どもの特性に応じてどの段階から始めるのか考える
- ・性格を変えることはできないが、環境と対応で行動を変えることは可能である

◎先生より

- ・気になる行動に対して対処する優先順位をつけ、多くを求めず1つずつ課題に取り組む
- ・目標設定が対象児に合っているのか振り返りを行う
- ・保護者の理解と協力を得る

◆配布資料◆

- ・0歳～6歳子どもの発達と保育の本 第2版
河原紀子 監修・執筆 の抜粋ページ

◆参考文献◆

- ・ADHD注意欠如・多動症
田中康雄 監修 2020ミネルヴァ書房
- ・0～5歳児発達が気になる子のコミュニケーション力育て
山本淳一監修 松崎敦子著 2020 Gakken
- ・発達障害がある子どもができることを伸ばす幼児編
杉山登志郎/辻井正次監修 2012 日東書院

第2回 特別支援教育研究会

月 日 令和3年6月16日(水)

場 所 エポックなかはら

講 師 塚越 和子先生
(療育コンサルタント・保育士)

テーマ:「園生活を穏やかにおくるための配慮
—子ども達に何を求めるか考えよう—」

俯瞰図番号 E4 - I

◎子ども達が園で穏やかに過ごすために

・大切なことは

- ①子ども達を理解する
- ②大人が配慮と支援方法を学ぶ

◎子どもがどの程度理解しているのかわからない場合

・行動の原因を考え、積極的に関わる

- ①子どもの気持ちを想像し、なぜその行動をとったのか考える
- ②想像した原因にもとづいた対応をして検証する

→注意ではなく何をして欲しいか具体的に伝える

○×で伝えても理解がむずかしい

◎先生が知っておくこと

・気になる子どもがいたら行動観察をし、併せて生活リズムや成育歴(発語の時期など)をチェックする

・子どもは発達途上におり、これから成長していくので保育者の肯定的な配慮が必要

・わかりやすい指示、生活しやすいクラスづくりをしているか自分の保育を振り返る

→フリーや補助の先生など第三者に見てもらうことも有効である

◎穏やかに過ごすために

○教室内

・気持ち(=行動)の切り替えを助ける

EX) 部屋の温度を低めに、照明を暗めに

・苦手なことは手伝う

→期待しすぎず、子どもが安心できるようにする

・床に座る時間を少なくする

→となりの椅子との間隔を広くし、手に届く興味の対象物を減らす

○活動

・説明は絵を使ってわかりやすく

→完成品を見せて何をつくるのか見通しをもてるようにする

・活動の始めと終わりをハッキリ知らせる

・対象児が興味のあるものを教材に取り入れ注目させる

・集中力が切れた時のために対象児が1人で楽しめるものを用意しておく

○食事

・食事内容は食べられるものを食べられる量だけ持ってくる

→好き嫌いと偏食は違うので誤解しないこと

・始めと終わりの時間を伝えて見通しをもたせる

・保護者に協力を得て、家でも練習してもらう

○生活

・持ち物や活動内容を半分にする

・子ども達が自分の意見や感想を話さずに帰宅しないよう気をつける

→社会性やコミュニケーション力を培うため

◆参考文献◆

・ADHD注意欠如・多動症

田中康雄監修 2020 ミネルヴァ書房

・0~5歳児発達が気になる子のコミュニケーション力育て

山本淳一監修 松崎敦子著 2020 Gakken

・発達障害がある子どもができることを伸ばす
幼児編

杉山登志郎/辻井正次監修 2012 日東書院

第4回 特別支援教育研究会

月 日 令和3年10月20日(水)

場 所 エポックなかはら

講 師 塚越 和子先生

(療育コンサルタント・保育士)

テーマ：「この時期の現状と今後の課題」

俯瞰図番号 E7-I

◎子どもたちを理解するために

- ・集団のなかで子どもたちの行動を観察する
- 手先の器用さと記憶力をチェックするとよい
(着がえを見るとよくわかる)
- ・仮説をたて配慮や支援を行い、結果の検証をする
- EX)指示を減らす、視覚情報も入れるなど

◎発達的な理解の重要性

- ・一般的な発達段階を知ることによって子どもたちをより理解するためのツールとなる
- ・保育目標が子どもたちの発達に合ったものなのか確認できる

◎各年齢の保育目標の基本

社会のルールを守って生きるために必要なもの

①基本的な生活スキルの獲得

→挨拶、食事の作法、所持品の管理など

②話の理解と行動

→話を聞いて状況に合わせて行動できるか、ルールを理解し守れるか

③コミュニケーション

→自分の気持ちを伝える、いやなことはいやと主張ができる

④集団適応行動

→集団においての約束を守れるか

◎こだわりについて学ぶ

○ASDのこだわり行動とは

- ・特定のものや状況に執着する
- ・執着したものを一定の状態に保とうとする
- ・変わることや変えられることを極端に嫌う

○ASDの特徴

- ・想像力が乏しい
- ・言葉の理解が遅い子が多い

○こだわり行動の3つの特徴

①変えない

変化や変更することを受け入れない、同一の保持(こだわり行動の根幹)

②やめない

延々と繰り返す、しつこい、諦めない、その状況にみずから区切りをつけることがむずかしい

③始めない

新しいことや新しい場所、状況を受けつけない

→こだわりは育て方や心の問題ではない

生まれながらにして生じる脳の機能障害と考えられている

○幼児期の対処のポイント

①こだわり行動に対して多くの指導はしない基本的にこだわりはなくせない

②最も改善しやすいと思われるこだわり行動に的を絞り対処する

③対象児と人間関係を築くことを目指す

→こだわりが顕著に現れる時は不安・緊張・怒りを感じている時なので行動をとめるのではなく共感的な関わりをしてネガティブな感情を鎮めるようにする

◎就学に向けた支援

- ・就学先を決める際は就学後の子どもたちの生活を考慮したうえで決めること
- また保護者の希望も含めて検討すること
- ・事前相談の専用窓口があり開始時期も決まっているため支援が必要な子は相談に行くよう保護者へ伝える
- ・集団生活でのようすや園で困っていることなどを保護者へ具体的に伝え、事前相談の際に伝えてもらうようにする

◆配布資料◆

- ・子どもの発達・発育 目安表

◆参考文献◆

- ・気になる子のために保育者ができる特別支援
監修 小平雅基 中野圭子Gakken 2019
- ・発達障害の子どもの心と行動がわかる本
田中康雄 著 西東社2015
- ・自閉症スペクトラムとこだわり行動への対処
法
白石雅一 著 東京書籍2013

第5回 特別支援教育研究会

月 日 令和3年11月17日(水)

場 所 エポックなかはら

講 師 塚越 和子先生

(療育コンサルタント・保育士)

テーマ:「今までの取り組みを振り返る」

俯瞰図番号 E7-II

◎おたずねFAX事例から学ぶ

○気になる行動をする子に対して

例①読み聞かせの時間に周囲を気にせず前に出

てきて指さしをしながら声を発する

・上記の行動は1歳前の子(発達の目安)

→言葉で説明しても伝わらないので視覚や環境
設定で支援する

EX) 椅子や机を出す、大人が横に座る など

例②自由あそび後の片づけ中に片づけに参加せ

ず絵本を読み始める

→視覚で支援する

EX) 長い針が○○迄、しおりを挟む など

→少しずつ変更に慣れていく練習も必要

視覚的に事前の予告を必ずするが簡単なこと
から集団でのルールを教えていく

◎感覚について学ぶ

○園で気づく例

・のりが触れない

・歌や音楽、演奏練習の時に耳を手で覆う

・痛みを感じにくい など

→自分の感じ方が周囲と違うことを自覚しにく
いため自分の辛さを説明できない子が多い

○5つの感覚と感じ方について

①視覚②聴覚③嗅覚④味覚⑤触覚

・敏感な子

ストレスになる、頭痛がする、混乱するなど

・鈍感な子

ケガをしても痛みを感じにくい、気候に合わ
せた服の調節ができないなど

○園で取り入れられるグッズ

・のりが触れない→スティックのり

・耳を手で覆う→イヤーマフ など

○感覚の問題を抱えている子ども達

・わがまま、気まぐれ、努力不足と誤解される

→周囲の人の理解と寄り添った対応が大切

◎気になる子ども達について

・気になる子ども、診断名がつく子どもは増加
している

・主な理由は世間の知識や意識が高くなってき
ているため早い段階で気づけること

・それぞれの特性は治るか治らないではなく発
達していくと捉える

◎療育とは(=治療教育)

・子ども1人1人の状態を十分に把握して、そ
の子の持つ力を少しずつ段階的に引き出しな
がらできることを増やして、社会で生きてい
く方法を身に付けるための教育や支援をする

→信頼できる大人が身近にいることが大切

→療育が必要な子は、療育で経験を積み上げ力
をつけてから幼稚園へ通うことが本来理想で
ある

○療育はどこで受けられるか

・療育センター(川崎市4か所)

・民間が運営する施設

・大学や病院の附属機関

・発達専門のクリニック

◆参考文献◆

・自閉症の人の人間力を育てる

篁一誠 著 ぶどう社2017

・発達障害の子どもの心と行動がわかる本

田中康雄 著 西東社2015

・自閉症療育の宝石箱

永井洋子・太田昌考 著 日本文化科学社2014

子どもと共に育つ保育者研究会

研究経過

講師 齋藤正典先生

(相模女子大学学芸学部教授・

認定こども園相模女子大学幼稚部園長)

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図 番号	人数	
				対面	ZOOM
1	5月19日(水)	「社会人としての役割 ー子どもの育ちと記録のとり方(育ちの理 解)ー」	D1-I	42	60
2	6月16日(水)	「安全な園生活」	A3-II	36	61
3	9月15日(水) ※対面のみ中止	「職場における同僚性」	B6-II	/	67
4	10月20日(水)	「子ども育ちと記録の取り方(育ちの記録)」	D2-I	33	60
5	11月17日(水)	「保育の振り返りと評価」	E7-II	30	63
6	1月19日(水)	「人間性豊かな保育者になるために」	B6-I	29	68

◆研究指定園(21園)

対面

江川幼稚園 川崎さくら幼稚園 若宮幼稚園 大師幼稚園
 梅園幼稚園 鹿島田幼稚園 田園調布学園大学みらいこども園 若竹幼稚園
 川崎めぐみ幼稚園 津田山幼稚園 梶ヶ谷幼稚園 さぎぬま幼稚園
 さぎぬま幼稚園 潮見台みどり幼稚園 丸山幼稚園 菅幼稚園
 ちよがおか幼稚園 柿の実幼稚園 こうりんじ幼稚園 ちよがおか幼稚園
 初山幼稚園

遠隔(ZOOM)

江川幼稚園 川崎さくら幼稚園 小田双葉幼稚園 川崎頌和幼稚園
 大師幼稚園 鹿島田幼稚園 つぼみ幼稚園 田園調布学園大学みらいこども園
 諏訪幼稚園 若竹幼稚園 川崎めぐみ幼稚園 津田山幼稚園
 健爽学園ゆりかご幼稚園 初山幼稚園 東菅幼稚園 玉川幼稚園
 川崎青葉幼稚園 百合丘さくら幼稚園 こうりんじ幼稚園 ちよがおか幼稚園
 元住吉こぼと幼稚園

第1回 子どもと共に育つ保育者研究会

月 日 令和3年5月19日(水)

場 所 川崎市総合自治会館

講 師 齋藤 正典先生

(相模女子大学教授・認定子ども園相模女子大学幼稚部園長)

テーマ：「社会人としての役割」子どもの育ちと記録の取り方(育ちの理解)

俯瞰図番号 D1-I

○全国保育士会倫理綱領(前文)より

- ・子どもたちを支えます→保育の実践
- ・保護者の子育てを支えます→子育て支援
- ・子どもと子育てにやさしい社会をつくります→よりよき社会の構築者、子ども・保護者の代弁者

(内容)

- ・子どもの最善の利益の尊重
- ・子どもの発達保障
- ・保護者との協力
- ・プライバシーの保護
- ・利用者の代弁
- ・地域の子育て支援
- ・専門職としての責務

○保護者の子どもへの適切な指導・援助

- 子どもの最善の利益、発達保障
- ・子どもの内面(気持ち・行動)の理解
- ・子どもの育ち(発達の状況・何が育とうとしているか)の理解
- 理解によって援助が大きく変わる

○隠れたカリキュラム

意図しないままに教師(保育者)や仲間や生徒たちから教えられていくこと

- 無意識的に子どもの学びや育ちに影響する可能性がある

○心の理論獲得と友だちとの関係

→自分とは異なる他者の信念を理解するための対人認知的な枠組み

↑

心の理論の獲得状況で援助の在り方を変えていく必要がある

→発達に対する知識と個々の子どもの発達の状況の理解が重要

○子どもの育ちの評価の仕方

1、相対評価的な捉え方

比較して序列/優劣をつけることが特徴

2、絶対評価的な捉え方

成績・成果などがどれだけ目標に対して達成されたかを評価

3、個人内評価的な捉え方

個人の内部で比較して行う評価

○子どもたちの育ちを捉えるために

- 1、発達の道筋を理解
- 2、目の前のリアルな発達の姿を捉える
- 3、乳幼児の姿を発達していく姿として捉える

○A T I現象(適正処遇交互作用)

・教師観、子どもの能力・適性、個性には必ず相性がある

・保育者によって子どもの見方が変わる

→どうして起こるのか

1、自園の理念、方針、教育、保育などが共有化されていない時

2、自園の理念や方針が漠然とし、教育・保育に結びつけ方がわかりにくい時

→保育者、保護者と情報共有し、ともに保育を振り返る資料として示す 保育の見える化

第2回 子どもと共に育つ保育者研究会

月 日 令和3年6月16日(水)

場 所 川崎市総合自治会館

講 師 齋藤 正典先生

(相模女子大学教授・認定子ども園相模女子大学幼稚部園長)

テーマ:「安全な園生活」

俯瞰図番号 A3-II

○保護者との信頼関係の構築と事故に対する方針の明確化

○保育施設における重大事故の実態

- ・死亡事故が最も多いのは0歳児、次いで、1歳児・2歳児。時間帯は睡眠中。
- ・3歳児以上は極めて少ない。ほとんどが園外で、園内ではプール。

○事故例を参考に考える 事故後の対応

- 1、保護者の動揺を最小限にし、信頼回復を図る努力
- 2、保護者への丁寧な説明
- 3、保護者への誠意ある対応
- 4、職員の動揺を最小限にする努力
- 5、SNSや評価サイトは見ない／気にしない

○睡眠中のヒヤリハットの事例を参考に考える

- 1、うつぶせ寝を絶対にしない
- 2、表情が見える明るい場所で寝かせる
- 3、睡眠チェックの確実な実施
- 4、顔まわりに注意

○再発防止のための対応 事故の検証

- ・保育環境や保育実践の見直し。
- 事故は保育者に余裕がない時に起こる。
- ・怪我や事故につながる行動に対して、全職員が必ず注意。
- ・園内研修の実施。
- 応急処置や保護者対応について
- ・保育者の人間関係の見直し。
- 情報共有ができず、連携が取れない。また、平常心で保育ができないと人間関係がうまくいかず、事故が起こりやすい。

○保育における危険予知

- リスク→子どものあそびの活動の中で活かしていくもの
- ハザード→事故防止のため徹底して取り除くもの
- ・ハザードとなる要因
- 内的環境因→危険について子ども自身がわかっていて対応できるか。また、保育者が危険と捉えられるか。
- 外的環境因→遊具の設計、構造、施工、維持管理の不備など

○ヒヤリハット報告書・事故報告書の導入と活用

- ※重大な事故の前には必ず前ぶれがある。それを見逃さず対応を行う。(事例検討会など)
- ※偽りの安心感→ヒヤリハットを見ているうちにむしろ大丈夫と思うようになる。

○重大事故が起こる3要因

- 1、適切なルールやマニュアルの作成と周知がされない
- 2、子どもの行動に対する把握の不十分さ
- 3、職員間のコミュニケーション不足

○事故対応マニュアルの職員への周知

- 多すぎると覚えられず、臨機応変な対応ができないので、内容を確認しながら体で覚えるようにする。

○安全管理に対するミドルリーダーの役割

- ・職場のコミュニケーション力を高めていく。
- ・安全に対する意欲を持って取り組む。
- ・現場の声を管理職に伝え、改善を促し主導する。

○まとめ

子どもの育ちを理解する = 子どもの客観的・
現象的な姿に対する保育者の解釈・意味づけ

- 1、発達観 個人差が大きいものとして理解し
発達していく姿として理解する
- 2、自分との関係性、保育実践との関連性で理
解する
- 3、子どもの育ちを保護者が共同してつくり出
していくことの重要性

第3回 子どもと共に育つ保育者研究会

月 日 令和3年9月15日(水)

場 所 川崎市総合自治会館

講 師 齋藤 正典先生

(相模女子大学教授・認定子ども園相模女子大学幼稚部園長)

テーマ：「職場における同僚性」

俯瞰図番号 B6-II

○職場での人間関係上の留意点

- ①職場だけの関係と割り切ることも重要
- ②話しやすい管理職に相談する
- ③愚痴や悪口を職場で言わない・同調しない
- ④職場以外の友だちや家族と話す
- ⑤同僚への感謝や配慮

→職場には、自分と合わない人も必ずいる

○仕事上関わってはいけない人

- ①挨拶・返事・応答のない人
- ②求めているアドバイスをする人
- ③愚痴や文句ばかり言う人
- ④感情的でキレル・ネガティブな感情や情緒を職場に持ち込む人
- ⑤必要以上の厳しさや恐怖を感じさせる人
- ⑥言いわけばかりで反省や成長をしない人

○職場における人間関係の重要性

- ・事例を元に保育者2名の子どもたちに対する捉え方の違いをみる。

○捉え方の違いはなぜ起きるか

- ①自園の理念・教育・保育の在り方が職員間で共有化されていない
- ②理念・方針が漠然とし、教育・保育実践への結びつけがわかりにくい

→子どもとの関係性・相性・関わり方の違いによって捉え方が変わるため、話し合いをしてリアルな子ども像の構築が重要である。

○保育の振り返りの重要性

- ・みずからの保育を常に振り返り、反省的洞察が重要である。
- ・保育者間で話し合いによる振り返りをし、指導・援助・考え方に互いに触れ合い、自分の保育実践を問い直すことも大切である。

○保育の振り返りとは

- ・いたらぬ点を謝罪するのではなく、いろいろな見方に気づき、幼児の行動の意図や意味を改めて考えること。

○職場のコミュニケーション力を捉える

おしゃべり・弱音を吐ける・声かけ・対話がバランスよくできる環境が望ましい。

○保育現場における人間関係→同僚性とは

個々の保育者には自分の資質・能力を互に高めあえる関係性であることが基本。

○同僚性の高い教育組織の特徴

- ①互いの役割や考え方について理解し、納得している。(認め合い)
- ②情報の共有や実践交流し、支援している。(支え合い)
- ③園や園児の実態と課題を共有化し、解決策を創出している。(学び合い)

○同僚性を支えるコミュニケーション

- ・アサーションの重要性
自分の気持ちなどを相手へ伝える時に、正直にその場に適切な方法で伝えるコミュニケーションのあり方。

○アサーティブであるために必要なこと

- ・自分の意見を持つ
- ・意見を具体的に表現する
- ・相手の思いや意見を尊重し傾聴する

→互いに納得いく結論が出せたり、爽やかな

コミュニケーションができ、自分の可能性が広がる。

○アサーションの3つの技法

- ① Iメッセージ→相手の行動を直接責めず、肯定的な言葉を使う。
- ② DESC法→言いたいことを4つに分解して話す方法で、客観的に自分の言いたいことが受け入れてもらえるメリットがある。
- ③ オープンクエスチョン→相手に自由な回答をさせる質問の仕方。

○同僚性を支えるリーダーシップ

- ・リーダーとは、ポジション（役職）を示す。
- ・リーダーシップとは、周囲にポジティブな影響を与える関わり。

○教育現場におけるリーダーシップ

- ① 方向づけのリーダーシップ
- ② 協働的リーダーシップ
- ③ 他者を力づけるためのリーダーシップ
- ④ 教育のリーダーシップ

○求められるリーダーシップの具体例

- ① 後輩保育者もリーダーシップを発揮できるようにする。
- ② 保育者みずからが判断できるようにする。
- ③ 保育者としての成長や熟達を意識化できるようにする。
- ④ 後輩保育者の仕事に対する意識や意欲を高める。
- ⑤ 教育理念・目標慣例などについて共通認識を持てるようにする。
- ⑥ 園長・副園長などの管理職に建設的な提案をする。

○保育・教育施設における後輩保育者へのリーダーシップ

- ① 同僚性を高める（認め合い・支え合い・学

び合い）

- ③ 自園の教育・保育をよりよくするために現場の声を（建設的に）園長に伝えていく姿を見せていくこと。

第4回 子どもと共に育つ保育者研究会

月 日 令和3年 10月 20日 (水)

場 所 川崎市総合自治会館

講 師 齋藤 正典先生

(相模女子大学教授・認定子ども園相模女子大学幼稚部園長)

テーマ：「子どもの育ちと記録の取り方（育ちの記録）」

俯瞰図番号 D2-I

○保育における記録 何のために記録をするのか

- ①子ども1人1人の育ちを捉える
- ②子ども理解を深め、保育の質を向上させていくため
- ③保育（教育）をつないでいくため
・記録のための記録としない（保育者の業務負担への配慮）

○保育における記録の種類

- ①保育日誌（保育実践を振り返る視点）
- ②個人記録（子どもの経験を捉える視点）
- ③経過記録（子どもの育ちを捉える視点）
- ④指導要録

○幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- 1、健康な心と体
 - 2、自立心
 - 3、協同性
 - 4、道徳性・規範意識の芽生え
 - 5、社会生活との関わり
 - 6、思考力の芽生え
 - 7、自然との関わり・生命尊重
 - 8、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 - 9、言葉による伝え合い
 - 10、豊かな感性と表現
- ・子どもの何が育っているかを保育者が捉え、理解するための視点

○保育記録の工夫

1、自分のための記録（保育を思い出すための資料）

2、情報共有、情報提供のための記録の工夫

(1) エピソード記録

- 利点 ①日々の保育の振り返りをしやすい
②子ども理解が深まりやすい
③保育実践への理解が深まりやすい

(2) 保育ドキュメンテーション

→あそびや学びの変化を可視化した記録

- 利点 ①子どもの育ちを実感できる
②保護者との関係強化
③保育者の能力向上
④保育の質の向上

(3) ポートフォリオ

- 利点 ①子どもたちがみずからの活動の軌跡を確認できる

*②③④は保育ドキュメンテーションに同じ

(4) ラーニングストーリー（連絡帳）

○保育を記録する上での基本的な留意点

- 1、子どもの善さを記録する／肯定的に記録する
- 2、社会的文脈の中で捉える
- 3、子どもなりの育ち（発達）の中で記録する
- 4、集団と個の関係性の中で記録する
- 5、自分と子どもとの関係性も加味した記録

第5回 子どもと共に育つ保育者研究会

月 日 令和3年 11月 17日 (水)

場 所 川崎市総合自治会館

講 師 齋藤 正典先生

(相模女子大学教授・認定子ども園相模女子大学幼稚部園長)

テーマ:「保育の振り返りと評価」

俯瞰図番号 E7-II

○教育・保育の評価とは

・保育所における自己評価ガイドライン・幼稚園における学校評価ガイドラインなど

○幼稚園や保育所などの評価の目的

- 1、教育活動・内容・方法などを振り返り改善していくことで、教育・保育の質の確保・向上を図る。
- 2、評価結果の公表・説明により、理解と参画を得て、連携・協力しながら園づくりを進める。
- 3、評価結果に応じて、改善措置を講じることにより質を保証する。

○幼稚園や保育所などの評価の種類

①自己評価 ②学校関係者評価 ③第三者評価
・自己評価には、個々の職員の自己評価と、園の組織としての自己評価からなるもの・振り返りと対話を通して行う方法・チェック形式による方法がある。

○保育マネジメントとは

- 1、保育現場のマネジメント→直接・間接的に関わるすべての人や組織のマネジメント
- 2、保育実践のマネジメント→子ども理解や保育の質を高めていく上でのマネジメント

○マネジメントに求められる能力

- ①課題の分析力／解決力
- ②組織管理能力
- ③意思決定力

④コーチング力

○自園の課題を見出すポイント

- 1、自園の理念や方針に沿って、教育・保育の質の向上がなされているかといった観点からみずから見出していく。
- 2、課題や問題点をうまく吸い上げ、まとめて主任・副園長・園長に伝えていく。
*上意下達的に伝達していくのではない／なんでも管理職に主張するものでもない

○課題をどのように吸い上げていくか

・自分の課題を話すことへの抵抗感の緩和のために、傾聴していく中で成果の確認や話し合いをするグループ構成を工夫する。

○課題をどのようにしぼっていくか

課題を焦点化していく

- 1、場面の限定
- 2、事例・写真・ビデオを用いて話し合う
- 3、外部講師・自園以外の保育者を交えた話し合い
- 4、図式化(ラベリングワークなど)して、整理しながら話し合う

○PDCAサイクルとOODAループ

1、PDCAサイクルとは

Plan (計画) → Do (実践) → Check (評価) → Action (改善)

2、OODAループとは

Observe (観察) → Orient (方向づけ) → Decide → (決定) → Act (実行)

・ミドルリーダーは、OODAループにもとづいて、日々の実践の中でさまざまな課題を解決していけるように適宜助言をし、OODAループがPDCAサイクルの中に位置づけられるようにする。

○教育・保育内容等の自己評価の基本的な考え方

→自己評価だけでなく、学校関係者評価や第三者評価、公開保育などを活用して、多様な視点を取り入れることが重要。

○個々の職員による教育・保育内容等の自己評価におけるミドルリーダーの役割

①子ども理解→実線を中心となり、身近なモデルとなる。

②振り返り→他の保育者の振り返りや、職員間の相互の振り返りを促す。

③改善・充実に向けた検討→課題を抱え込まないようケアし、協働を促したり、保護者から理解を得られるようにする。

○園としての組織的な教育・保育内容等の自己評価におけるミドルリーダーの役割

①適切な視点・項目の設定

②現状と課題の把握と共有

③改善・充実に向けた検討

○教育・保育内容等の自己評価結果の公表

→外部に公表することは、園が社会的責任を果たす上で重要な取り組みである。評価の結果を公表し、さまざまな人から意見を聞くことは、次の教育・保育に向かう過程の一環となる。

3 歳児研究会

研究経過

	期日	テーマ及び内容	講師	俯瞰図 番号	人数
1	5月19日(水)	「3歳児・不安と混乱から自己 発揮へ」 -この時期に必要な環境と援助 のあり方-	小林 愛子先生 (戸山幼稚園顧問 東京教育専門学校 非常勤講師 (公財)幼少年研究所 所員)	A 4 - I	56
2	6月16日(水)	「3歳児の自我・自己主張」 -環境づくりと保育者の役割-		B 2 - I	47
3	9月15日(水) ※中止	コロナによる緊急事態宣言のため中止		E 2 - II	
4	10月20日(水)	「3歳児の仲間意識の深まり」 -環境づくりと保育者の役割-	木暮 真紀先生 (学校法人池谷学園 富士 見幼稚園 主任 (公財)幼少年研究所 所員)	E 4 - II	51
5	11月17日(水)	「3歳児の育ちと3学期の見通し」 -子ども理解と保育者の役割-		B 2 - II	45
6	1月19日(水)	「覗いてみよう3歳児の世界と 「1年間の育ち」」 -子どもの見方・捉え方・関 わり方- 「3歳児の1年間の育ちと4歳 児に向けて」	長瀬 薫先生 (認定こども園中野幼稚園 中野どんぐり保育園園長 (公財)幼少年研究所 所員) 木暮 真紀先生 (学校法人池谷学園 富士 見幼稚園 主任 (公財)幼少年研究所 所員)	B 2 - I	34

◆研究指定園 (27 園)

江川幼稚園 若宮幼稚園 川崎協立幼稚園 ゆりかご幼稚園
 梅園幼稚園 小峰幼稚園 鹿島田幼稚園 サクラノ幼稚園
 宮内幼稚園 田園調布学園大学みらいこども園 諏訪幼稚園 川崎めぐみ幼稚園
 津田山幼稚園 梶ヶ谷幼稚園 新作やはた幼稚園 初山幼稚園
 健爽学園ゆりかご幼稚園 潮見台みどり幼稚園 さぎぬま幼稚園 ひばり幼稚園
 丸山幼稚園 菅幼稚園 東菅幼稚園 玉川幼稚園
 こうりんじ幼稚園 ちよがおか幼稚園 柿の実幼稚園

第1回 3歳児研究会

月 日 令和3年5月19日(水)

会 場 エポック中原

講 師 小林 愛子先生

((公財)幼少年教育研究所 発達と保育研究部会)

テーマ:「3歳児・不安と混乱から自己発揮へ」
～この時期に必要な環境と援助のあり方～

俯瞰図番号 A4-I

1、3歳児の1年間の発達変容

1期 不安と混乱期(4・5月)

- ・母子分離や環境の変化で戸惑い、不安になり、泣いたり保育者に依存したりする。
- ・身近にあるあそびから、自分の好きなあそびを見つけ遊ぶ。

2期 自己発揮(5・6月)

- ・園生活に慣れ、自ら好きなあそびを見つけ遊ぶ。
- ・同じあそびを繰り返したり、あそぶ場所や物に興味関心を示したりしてあそびを広げる。
- ・あそびの中で友だちの存在に気づく。

3期 自己主張(7・8・9月)

- ・友だちの存在を意識し声をかけたり真似したりして一緒に遊ぶ。
- ・友だちの中で自己アピールが強くなりトラブルなどが多くなる。
- ・語彙が豊富になり、会話がスムーズになる。

4期 仲間意識

- ・友だちとイメージの共有ができ、ごっこあそびを楽しむ。
- ・ルールのあるあそびを楽しむ。
- ・あそびの持続時間が長くなる。

5期 自己充実

- ・場面の状況判断をし保育者や友だ

ちに言葉で伝えようとする。

- ・年長児のあそびを真似したり難しいものにも挑戦しようとする。
- ・進級を楽しみに待つ。

2、VTR視聴

①グルグル

女兒が泣きながら、ピンクのマーカーでひたすらグルグルを画用紙いっぱい描いている。そのあと、色を替えて描く。はじめのうちは「グルグル妖怪」とつぶやいていたが、保育者の「赤いリボン描いて」という言葉かけに、赤いマーカーでリボンを描き、笑顔が見られた。

②いちとくん

いちとくんが階段を駆け登りホールへ向かう。ホールでは、目に入るもので次から次へと遊び、時には友だちに怒られている。そのいちとくんを1人の女兒が気持ちを受け入れてくれた。

③砂場と水

砂場で楽しそうに遊んでいる。じょうろに水を入れ、何回も砂場へ水を運んでいる。

④犬のけんちゃん

大きな犬のけんちゃんに水を飲ませようとするが行ってしまう。その場にいた友だちに声をかけ、水入れを犬のそばへ運ぶ。そこで、手に水を付け犬の口元へもっていくと手を舐めてくれた。

3、発表(各ケースごとに子どもの言動や心情を考えて、ピットリくる「題名」を付ける)

①泣きたいけど…・グルグル妖怪いっぱいになっちゃった・心の絵・グルグルしていたりリボンになった

②あっちこっち・これ何?あれ何?・さわってみたいやってみたい・どこに行こうかな?・ぜんぶやってみたい・ひと

真似いちと・大ぼうけん

- ③現場かんとく・ドロドロになったよ・それぞれの水のかたち・水遊び冷たく楽しい・ドロドロバシャバシャ・砂場あそびも水あそびもここでやりたいの・不思議だな・水が流れた・形のある水、形のない水・お砂場あそび楽しい
- ④飲んでくれるかな・犬のきもち・思いやり発見・なんで?・仲良くなりたい・ほくのお水飲んで!

4、まとめ

- ①1期・2期の発達特性
 - 〈1期、不安と混乱〉
 - ・母子分離や環境の変化による不安と混乱
 - ・保育者や物に依存する
 - ・身近な物に触れ遊び始める
 - ・身体の未分化
 - 〈2期 自己発揮〉
 - ・いろいろな物に興味・関心を持つ
 - ・感覚や感触を楽しむ
 - ・気に入ったものに没頭する
 - ・人の遊びに関心を持つ
- ②この時期の特性を生かした遊びと、保育者の関わり
 - ・わかり易く、丁寧に短めに伝える
 - ・色水あそび、たんぼあそび
- ③保護者の思い「期待と不安」
 - 不安な気持ちを受け止める。
 - 母にも安心・安定のために、子どもの良い所を伝える。
 - 共感の言葉をかける。
 - 子育てをしてきた尊敬の念を伝える。
 - ↓
 - 結果、保育者との関係も良くなる。

第2回 3歳児研究会

月 日 令和3年6月16日(水)

会 場 総合自治会館

講 師 小林 愛子先生

((公財) 幼少年教育研究所 発達と保育研究部会)

テーマ:「3歳児の自我・自己主張」～子ども理解と保育者の役割～

俯瞰図番号 B2-1

1、自己発揮を振り返る

- ・安心安定を得て、自己発揮するようになった。
- ・興味関心が広がり、自分の意志が出てきて自我がはっきりしてきた。
- ・自己発揮とは、主体性のスタートに立つこと。

2、3期この時期の子どもたちの姿(VTR)

①ソファでジャンプ

数名でソファからジャンプをしている。何度もジャンプを楽しみ、そのうち、手をつないでジャンプをしたり、1人が保育者役になり、床の上に立ちジャンプする友だちに手を添える姿もある。

②ケンカ

1人の女兒がアイロンをかけている。そこへもう1人の女兒が来て、突然アイロンと布を取り上げてしまう。更に、1人の女兒が仲裁に入り、解決法を伝えているが、全ての物を持って行ってしまい、はじめに遊んでいた女兒は泣いてしまう。そこで、保育者が間に入り、お互いに気持ちを伝えると、取り上げてしまった女兒は「貸して」と伝え、相手も「いいよ」と伝えることができた。

③テーブル拭き

数名でテーブルを拭いている。2名の男児が、「(拭き終えたタオルを)入れて」と言うと、拭いた友だちが入れてくれた。

④僕も私も

数名でおやつを食べている。口々に旅行での経験を伝え合っている。

3、発表～子どもの言動や心情を考えて題名をつける～

- ①うらやましいな、1人じゃドキドキしちゃうから、僕らはとぶんだ、皆でやると楽しいね、真似っこ上手、一緒にドキドキ、私もできるよ
- ②私だってやりたかったのに、私も使いたかったんだ、「貸して」は練習中
- ③役割分担、僕たちもお仕事しているよ、お手伝い大好き、皆できれいに
- ④次は私の番、聞いてきいて、幼稚園あるある

4、まとめ

◎自己発揮は、何故大事?

- ・自己確認、他者確認をすることによって自己主張へ移傾する。
- ・存在の自己証明をするために自己発揮できる保育が大切。

◎自己発揮から自己主張へ

- 1、言葉が増える
- 2、友だちの存在を意識
- 3、状況が読めるようになる
- 4、認められたい気持ちが強くなり、自分をわかってほしい気持ちを持つ
- 5、自分に自信がつき意欲的になる

◎この時期の特性を活かした生活や遊びと保育者の関わり

- ・注目してもらえる活動
お当番活動
- ・順番に気付ける活動
ヒーローごっこ(ごっこあそび)
かけっこ

第4回 3歳児研究会

月 日 令和3年 10月 20日 (水)

会 場 エポック中原

講 師 木暮 真紀先生

((公財) 幼少年教育研究所 発達と保育研究部会)

テーマ: 「3歳児の仲間意識の深まり」～環境づくりと保育者の役割～

俯瞰図番号 E4-II

1、6月からの子どもの姿を振り返る (自己発揮から自己主張期の子どもの姿)

◎6月

- ・母子分離が落ち着き、様々なものへの興味関心を持ち、目につくものへと向かって自己発揮していく。
- ・母への依存から保育者へ移行していく。

◎7・8月

- ・様々なものに触れ、遊び始めたその先には、僕や私と同じ子どもがいて、その子どもの使っている物や、していることに目が向き真似し始める。
- ・同じ興味に向かう子ども同士、物の取り合いからトラブルになる。「順番」や「一緒に」が適用しない。

◎9月

- ・友だちに関心を向け始めた子どもたちは、友だちの中で自分を出して遊ぶ。

◎10月

- ・運動会を通して、行事という非日常の経験をする。

2、4期この時期の子どもの姿 (VTR視聴)

①鉄棒

数名で鉄棒をしている。そのうち、前回りをして頭を下にしたままで、パーティーごっこを始める。

②じゃんけん

数名でじゃんけんをしているが、タイミ

ングが合わず決着がつかない。中には理解をしていない子どももいる。その中の一人がルールを力説するが友だちに伝わらず、そのうち片付けの時間になってしまう。

③今日の当番

子どもたちは椅子に座わっている。保育者が本日の当番の紹介をする。名前を呼ばれた子どもは前に出る。当番はバッチを付けているが、1人バッチを付けていない子どもが前に出た。保育者はその子どもの気持ちを受け入れた言葉掛けをしたあと、当番表を見せながら明日が当番であることを伝える。その子どもは納得し着席した。その後、玩具のマイクを使って自己紹介し、当番以外の子どもから「お当番さんお願いします」の言葉に、当番の子どもたちで相談し、「エイエイオー」と掛け声を言った。

④病院ごっこ

救急隊員と患者に分かれて病院ごっこをしている。布をかけたり、患者を抱き上げようとするなど、役になりきっている。

3、発表 (子どもの言動や心情を考えてぴったりくる題名を考える)

①みんなでパーティ、できたよ見てみて、見てみて聞いてきて

②決まらないじゃんけん、誰か助けて、学級委員、勝者は誰、みんなの思いは平行線、最強のあと出しパー

③あー僕のお当番は明日だった、やる気満々だったのにな、どんまい…ボン、恥ずかしいけど、みんなといたら大丈夫

④早く助けなきゃ、みんなで助けるぞ、どうしたんですか？ 気づかいの言葉、役割分担をして病気の人を助けよう

4、まとめ

(1) この時期の発達特性

- ①友だちの存在を意識して真似をして一緒に遊ぶ。
- ・友だちの動きや言葉・遊びを真似して自分もやってみる。
 - ・自ら表現することで友だちと一緒に喜びを味わい楽しむ。
- ②友だちとイメージの共有、共感する。
- ・友だちと世界を作り、その世界を共に楽しむ。
 - ・同じ目的をもってみんなと一緒にする（私たち・僕たち）共有感を味わう。
- ③意欲が芽生え目的を持ちながら積極的に遊ぶようになってきた。
- ・自分のやりたいことに向かって夢中で遊ぶ。
 - ・友だちの中で自分を出し、クラスの中の自分、「友だち」を意識し、安心感を感じながら行動する。
 - ・当番などやることがわかり、積極的に行動する。
- ④言葉の育ち…言葉の意味を理解して、会話を楽しめるようになってくる。
- ・状況を説明するようになる。
 - ・友だちの様子から気持ちを察する。
 - ・経験したことを生活の場面で思い出し行動につなげる。
- ⑤体の動きの育ち…コントロールするようになる。
- ・体のバランスをとる。
 - ・腕の力、足のふんばりが強くなっている。
 - ・力を加減し相手に合わせようとする。
- (2) 仲間意識の深まりを促す保育とは
- ①あそびの中に友だちと関わりながら進めていくものを取り入れる。
- ・わらべうたあそび…あぶくたった、はないちもんめ、かごめかごめ
- ②簡単なルールを取り入れ、子ども同士がルールを共有しながら進められるあそびを取り入れる。
- ・ルールのあるあそび…かくれんぼ、ひっこしゲーム、色鬼、しっぽとり、フルーツバスケット
- ③様々な動きを体験できるあそびを取り入れる。
- ・サーキット（飛ぶ、跳ねる、よじ登る、転がる、くぐる、バランス、またぐ）
- ④みんなの中でそれぞれが様々な役割を楽しめ、認め合ったりできるあそび。
- ・当番、楽器遊び、電車ごっこ、病院ごっこ、幼稚園ごっこ、警察ごっこ、お店屋さんごっこ
- ⑤ごっこ遊びで育つ仲間意識。
- ・イメージの世界を共有する
 - ・成りきる喜びや楽しさを友だちと共感する
 - ・互いに表現（思い）を出し合い、受け入れる
 - ・ごっこ遊びで生まれる対話を楽しむ
- (3) 環境づくりを考える
- ①ごっこあそびの環境を設定する。
- ・日々子どもたちの遊びの様子から、興味を探る。
 - ・コーナーを作る。
 - ・アイテムを用意する。
- ②子どもと一緒にあそぶ（保育者も一緒に）。
- ・役になりきって遊びに加わる。
 - ・ごっこあそびのやり取りが生まれるような会話を促す。
 - ・異年齢の子どもも巻き込む。
- ③子どもに任せる
- ・子どもたちが自分たちで遊びを進めるようになったら、保育者は一歩引いて見守る。

第5回 3歳児研究会

月 日 令和3年 11月 17日 (水)

会 場 エポック中原

講 師 木暮 真紀先生

((公財) 幼少年教育研究所 発達と保育研究部会)

テーマ: 「3歳児の育ちと3月期の見通し」 - 子ども理解と保育者の役割-

俯瞰図番号 B2-II

1、現在のあそびと子どもの姿

ハンターごっこ、♪きのこ、どんぐり探し、いす取りゲーム、色おに、手あそび「やきいもグーチーパー」

2、5期この時期の子どもの姿 (VTR視聴)

①かるた

保育者が作った手作りかるたで遊んでいる。絵カードに添った内容の言葉を1人が言い、他の子どもが取る。あまりにも身を乗り出していると「さがって」と声をかけながら仲良く遊んでいる。

②すごろく

男児4名ですごろくを始めた。ルールを理解しきれておらず、保育者にその都度確認するが、そのうち1人の子どもが理解し、友だちのさいころの目を数えてあげたり、進むコマを確認してあげる。

③鬼決め

かくれんぼの鬼決めを男児と女児数名が集まっている。片足をくっつけたあと、じゃんけんで「鬼決め」と歌う人を決める。鬼決めが始まったが、途中歌詞を忘れてしまい、友だちが教えてくれる場面もあった。そのうち男児が茶化し始めるなど、なかなか鬼が決まらない。最終的には、他の友だちも加わり何となくかくれんぼが始まった。

3、発表 (子どもの言動や心情を考えてぴったりにくる題名を考える)

①かるた

先生気分・忘れちゃった・次はどのカードかな・ちびっこ先生

②すごろく

難しいなゴールはどこだ・僕が教えてあげる・やっぱり3歳児

③鬼決め

始まらないかくれんぼ・上と下の世界・決めたい女子とあきてきちゃった男の子・鬼決めごっこ

4、まとめ

(1) この時期の発達特性

◎仲間関係の深まり

- ・友だちの中で自分を出し、受け入れてもらえる喜びや安心感を味わう
- ・共有、共感の場を求め、友だちとの遊びに向かっていく

◎身体の操作性の向上

- ・動きの中で、体のバランスを取る
- ・手先を使い細かい作業に対応する

◎考える力の育ち (言葉・理解・工夫) 言葉

- ・場面の状況を判断し、保育者や友だちに言葉で伝えようとする。
- ・話の内容が分かり会話をする。

理解

- ・物事の判断や関係性を認識する。
- ・先の見通しが立つようになる。

工夫

- ・イメージに合わせ、道具を使う。
- ・数えたり並べたりして、比較や調整をする。

◎意欲の高まり

- ・年中児年長児のあそびを真似したり難しいものにも挑戦しようとしたりする。
- ・「やりたい」というだけでなく「で

きるようになりたい」と思う気持ちの育ち。

(2) 3学期の保育を考える

①伝承遊びをしてみましょう。

お正月あそび（コマ回し、竹馬、たこあげ、すごろく、かるた、福笑い、羽根つき、だるま落とし、メンコ、おはじき、お手玉、ぼっくりなど）

- ・友だちと一緒にルールを共有する。
- ・あそびの方法や技術を知る。
- ・五感で感じ取る。
- ・文字や数に触れる。
- ・子ども達で遊びを進める。

②節分の保育

3歳児の「節分」とは何か。由来を知らせる。鬼退治（泣き虫おに）など。

③行事を通して

発表会（劇遊び）、生活展（作品展）など。

④その他

季節の変化を感じる、ことば遊び、ルールのあるあそび、当番活動など。

(3) 3学期の見通しと保育者の役割

①子どもたちの輪の中に介入しすぎず、関わりを見守る。

②子ども一人一人の姿（現状）を丁寧に読み取り、具体的な保育のねらいを立てる。

幼児教育・10年教諭研究会

研究経過

講師 上原文先生
 (精神保健福祉士・教育福祉研究室室長・
 日本データ社会福祉研究所副所長)

年間テーマ：川崎の幼児教育を考える研究会 2021

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	5月19日(水)	・子ども達の状態についての考察 その他の特徴の理解 ・その特徴を抱えた子ども達への具体的な対応 ・幼児教育の現場における工夫 ・家庭支援における具体的な対応	F 1 - I	36
2	6月16日(水)		F 1 - II	30
3	9月15日(水) ※中止		F 2 - II	/
4	10月20日(水)		F 2 - II	31
5	11月17日(水)		F 2 - III	29
6	1月19日(水)	「気になる子」の未来のためにー私たちは何を(あらためて考える機会にしたいと思います)	F 1 - III	42

◆研究指定園(13園)

さぎぬま幼稚園	サクラノ幼稚園	たちばな幼稚園	柿の実幼稚園
梶ヶ谷幼稚園	宮崎台幼稚園	江川幼稚園	若宮幼稚園
初山幼稚園	新作やはた幼稚園	菅幼稚園	川崎めぐみ幼稚園
大師幼稚園	こうりんじ幼稚園	洗足学園大学付属幼稚園	

第1回 幼児教育・10年教諭研究会

日時 令和3年5月19日(水)

場所 国際交流センターレセプションルーム

講師 上原 文先生

(精神保健福祉士・日本データ社会福祉
研究所副所長・教育福祉相談室長)

テーマ：「子どもたちの状態についての考察
その他の特徴の理解」

俯瞰図番号 F1- I

2015年から幼児保育全体の保育について障がい
児に特化した研修ではなくそういった子どもの
すべての子どもたちにどういった幼児教育が必要
かを学んでいく。

○発達障害についてさらにそのすそ野にいます
と思われる子どもたちについて

はじめに

急速に増えてきた「気になる子の存在
「発達障害」と言われる子どもたちの存在

↓

まだまだ知られていない側面

今までの保育教育技術では支援できない
(それどころかもっと難しい状態になってしま
う場合も)

↓

保育、教育全体の見直しが必要なのではないか

○「気になる子について」

・「気になった」その職業的直観は大体あって
いる

・「診断名がなくても支援は可能」
→診断名がついてからでは遅すぎる

・生活は今日から始まっている

○テキストを参考にする

1 あなたのクラスにいる気になるあの子

すずき出版

2 「気になる子」どう対応すればいい?

世界文化社

3 本当の家族支援とはー

子どもの周りにいるすべての先生方へ

すずき出版

4 「気になる子」の未来のために

フレーベル社

5 「気になる子」にこう対応してみよう

世界文化社

○まずしなければならないこと

☆基本的知識

特徴を把握すること

☆特徴をふまえた環境設定

☆当面のスケジュールの中でどのように対応す
るか

○どこが苦手なのかーこのようなところが苦手

前頭前野ー総合的に考えるところ

意味を考える、イメージする、意欲(やる気)

推測(人の気持ち、物事の背景等)

喜び悲しみ、罪悪感、罪償還

前頭前野に問題がある

○内部に抱えている諸問題

1 感覚入力の問題(出力も)

2 刺激の選択がうまくいかない

3 脳のネットワークがうまくいっていない

その他

※刺激の整理や選択ができない

脳の中のネットワークできる生活動作を取り
入れる→脳を育てる

このようなことをふまえて

・どの子にとってもわかりやすい保育の提供

・園と自分の見直しをする

○時間的整理

・スケジュールのバランスはどうか

継続研究会

- ・わかりやすく提供できているか

○聴覚的整理（話し方）

- 1 優しく、短く、結論から
 - 2 手を添える
 - 3 声のボリューム、トーンは下げる、適度なスピード
- ※子どもたちには入る声と入らない声がある
- 4 抽象的な言葉を使わない（あっちこっちそっち）
 - 5 怒る、叱る、叩くようなことはしない

※いい形を最初から行うようにする。

○物理的整理

物の置き位置→刺激の整理ができているか

保育者の立ち位置

- 中心をわかりやすく
- 保育者の背景に留意
- ピアノなどの置き方

この子たちの支援目標

- ・「伸ばす」ではなく「過ごす」「暮らす」
「むずかしい子にしない」
- ・将来「気になる子」の大多数がうまく生きていくために
- ・その子たちの生きていく選択肢を広くするために

※幼児期は基本であり、土台となる。

第2回 幼児教育・10年教諭研究会
月 日 令和3年6月16日(水)
場 所 国際交流センターレセプションルーム
講 師 上原 文先生
(精神保健福祉士・日本データ社会福祉
研究所副所長・教育福祉相談室長)
テーマ：「その特徴を抱えた子ども達への具体的
な対応」

俯瞰図番号 F1-II

リアクションペーパーの振り返り

- ・以前講義を聞いたことがあるが、再度聞いて理解が深まった。
- 人に伝えあえると良い。
- ・職業的な直観は信じてよい。
- ・時間の把握は抽象的であるので工夫する。
- ・椅子の位置を決めるのはよいが、隣同士を工夫するようにする。
- ・絵カードは個人ではなくクラス全体にわかるものがよい。
- ・保護者に伝える前に、担任として子どもが過ごしやすくする環境を整えることをまず考える。
- ・手を添えることの大切さ。
- まずは完成形を伝えることが必要。
- ・保育者の立ち位置、背景を工夫したことで、子どもたちと目が合うようになった。
- ・気になる子どもたちの気持ちを考えるようになった。
- ・失敗感より出来た気持ちを経験できるようにした。

○運動について

- ・二つ以上の動作、違う動きをすることがむずかしい。
- 走るとき足は動くが手がついていかない。
小学校になると・・・
- 授業の内容を聞いて書く見て書くがむずかしい

- ※足と手をつく運動を増やす。
- 例) 滑り台逆上り、ボルダリング等
- ・頭を使う意識動作を増やす。
- 止まる動作が一番むずかしい(静止)
- 例) 手を使って足を使う、目で見ながら手を使う動作

○製作について

- ・目に見えて「できた」という達成感を味わうことが大切である。
- 完成形を見せる。
- ・一斉に行うことも必要。
- ・折り紙も最後の一折をさせて、できた思いを感じさせる。
- ・絵は見本があってもよい。
- ・できたという気持ちが自信につながる。

愛情不足様の(愛着に問題があると思われる)子どもについて

- ・どのあたりに問題があるのか。
- ・心の発達の吟味がされていない現実がある。
- ・心にも発達の順序がある。
- 「子どもは社会で育てるべき」論の前に

第一段階(0~1歳半)

- ※絶対依存の時期が人生で一番大事
- ・心の奥底の安定
- ・絶対受容(子が求める母親の愛情)
- ・基本的信頼感(つながってもいいという安定感)
- ※「集団」の前に心の発達を意識することが大切である。

そこがうまくいかなかった場合

- (内側に出てくる場合)
- ・各種心身症

継続研究会

- 指しゃぶり、爪噛み、夜尿、おもらし、
チック、体の痛み、吐き気等
(外側に出てくる場合)
- ・各種非行
- 万引き、薬物、暴走等

園でできること、しなければいけないこと

- ・1人1人の心の受容
- ・その子だけの特別感
自分だけを受け入れてもらうということ。
- ・その事で安定感を感じる。
 - ・落ち着くと周りが見えて思いやりが生まれる。
- ※自分だけを受け入れてくれたという気持ち
が大切で、保育者の言葉で変わる。
保護者には日常生活の様子「○○ちゃんは～
がとても上手ですね」等伝えていくとよい。

第4回 幼児教育・10年教諭研究会

月 日 令和3年10月20日(水)

場 所 国際交流センターレセプションルーム

講 師 上原 文先生

(精神保健福祉士・日本データ社会福祉
研究所副所長・教育福祉相談室長)

テーマ：「その特徴を抱えた子ども達への具体的な対応」

「幼児教育の現場における工夫」

俯瞰図番号 F2- II

リアクションペーパーの振り返り

～スライドをみながら～

- ・時間の理解への取り組みの工夫をした。
- ・椅子の置く場所をわかりやすくしたことで、積極的になり過ごしやすくなった。
- 目に見えないことはわかりにくい。
- ・着替えの工夫をした。
- ・大切なことを伝えるときの声の工夫を実践した事で、子どもたちの姿に変化が見られた。
- ・達成感を味わえる経験を考えた。(運動、製作)
- ・愛着の問題を聞き、一人ひとりの受容を改めて考え、かかわるようにした。
- ・保護者にも子どもの姿を伝えるようにした。
- ・むずかしい子にしないために、手を差し伸べるようにした。
- ・全体に話しているときに個人の対応はせず、進めてよい。
- ・保護者に伝えるときは、伝えたいこと2割、ほめること8割で伝えると良い。できないことを言われても信頼や理解は生まれない。
- ・意識動作はしっかり体を動かすということを意識する。
- ・滑り台は上から滑ることを伝えなければならないが、したから上る動作は体を使う動作としてはとてもよい。
- ・弁当のナフキンは置く範囲がわかりやすいのであるとよい。(無地に近い布地がよい)

- ・製作、折り紙などのサンプルは3～4倍等大きいほうがわかりやすい。
- 最後の一折手を添えてできたという達成感を味わせることが、自信につながる。

感覚について

- ・個人差を抜けて過敏である。
- 触覚、前庭覚(傾き、回転、高さ等)
- ・くすぐり、触られることなどをいやがる。
- 検診でそっくり返るなど現れる。
- ・園での生活の中でこする、つつく、転がるなど遊びに取り入れると、治るわけではないが、慣れていくと、暮らしていくには問題なくなっていく。
- ・組み合わせた運動が苦手
- 知覚、聴覚、触覚を使った運動をたくさん取り入れると良い。

困った行動(問題行動)への対応

- ・なくしたほうが良い場合
- 取り合い、入ってほしくないところ、触ってほしくないもの
- ない、開かないなど知らせることが大切である。
- 例) 抱っこ→歩いてほしい時
- ここまでと少しずつ距離を決める。
- 園全体の共通理解が必要である。
- 約束を誰かしてしまうと抱っこの癖は治っていかない。
- 本人の見通しが持てなくなる。

判断に迷う場合

- ※その行動をする時を観察し、メモを取ってみる
- ・どういう時間帯
- ・その前
- ・その後

継続研究会

- ・対象のもの、人
 - ・その他
- 保育者はいい形を最初から整え、騒がずに
伝え、癖をつけさせないようにすることが大
切である。

第5回 幼児教育・10年教諭研究会
 月 日 令和3年11月17日(水)
 場 所 国際交流センターレセプションルーム
 講 師 上原 文先生
 (精神保健福祉士・日本データ社会福祉研究所副所長・教育福祉相談室長)
 テーマ:「家庭支援における具体的な対応」
 俯瞰図番号 F2-Ⅲ

リアクションペーパーの振り返り

- ・椅子の工夫をした。(手掛かりは大きく～小さく)
- ・保護者に伝えるときは、現実の姿だけではなく、方法論も伝えることが大切である。
できない姿を伝えても理解はしてもらえない。
- ・意見交換の内容の見直しができた。
- ・抱き癖を考えなおす機会になった。
- 手を使うなど工夫すると良い。
- ・何気ない時間が苦手なので作らないように工夫することが大切である。
- ・絵本の大切さを知った。
- ・体を動かす大切さを知り、朝の時間を使って音楽に合わせて踊るなどしてみたことで、子どもの様子に変化が見られた。
- ・入れない、開かない、触れないをしっかりと伝えていくようにした事で入ることがなくなった。
- ・問題行動を細かくメモするようになった。
- ・失敗感をなくす。
- ・預かり保育の時のかわりの工夫をした。
- ・保護者に伝えるときは、方法論を伝えるようにした。以前は家では、できると受け入れてもらえなかった。
- 工夫が必要ということを知ってもらえることが大事である。家での様子と園の様子が違うのは環境が違うので当たり前である。

家庭支援を考えるために

本当はほしい行政のシステム
 《すべての子の親に》
 「子育ての基本」を伝えるシステムを作る。
 できれば低年齢のうちに(0～6か月)
 《子どもの発達に疑問がある場合のために》
 1歳半健診の充実



こういうことを行政にファシリテートしていく役割も園が持ってほしい。

すべての子の親に・・・園として

○すべての親に伝えてほしいこと

「心の発達」
 一番大切なところ
 受容の大きな意味を考える

「生活リズムの大切さ」
 精神の安定のために
 心と体の安定のために
 (ここで伝わらなければ一生・・・)

○伝え方の工夫

まずは全体的に伝え、個別に伝えるようにする。

例) この前の園日よりでも伝えましたが・・・等
 →個別対応の場合、後述「家族の判断」を参考にすること。

○伝え方の具体的方法

- ・園日より(コラムみたいなものでよい)
- ・クラス日より
- ・懇談会
- ・勉強会
- ・面談
- ・家庭訪問

○懇談会などで伝える方法

《受容について》

継続研究会

- ・触れ合いの内容
取り組みの例
- ・親子がほっこりするような絵本読んでみる
- ・保育者と子どもとの触れ合いの写真を貼っておく
- ・連絡帳の工夫

○触れ合いとは？

おんぶする、抱っこする、体に触れる、膝に乗せる、手をつなぐ等

子どもが育っていく上で

「人生ってそんなにわるいものじゃない」と思えるために必要な条件は

- 1 「人は頼りになるものだ」という思い
(基本的信頼感) と
- 2 「僕ってけっこうやる(できる)やつ」
(自己有能感)

保護者に記入させるためのレジュメ

1 幼児期の置ける生活リズムの大切さ

精神安定のため

☆気難しい状態を減らすため

(なるべく「快」の状態をたすため)

☆よい刺激を吸収しやすい状態にするため

☆昼間の活動に参加できるように

☆何かあった時でも立ち直りが早くできるように

※睡眠時間が大切である。

・発達に疑問がある子の親に対しては・・・
→その子のバックグラウンドへの判断が大切
その親ができるところ可能なところから提案していくこと。

○大前提として

・園の中でこの気になる子どもたちの特徴を理論的に理解し、保育スタイルを見直し、対応方法がある程度確率できているかどうか大切。

→叱らないで生活できる方法を探す。

何をおぎなえようまくいくかを考える。

支援のプロセス

(すべての子の親に対して必要)

1 環境の評価

→家族構成、住居、父親の職業、収入、
母親の生活処理能力(提出物・荷物の多さ・
整理・服装・髪型など)

2 夫婦のバランス

3 精神的環境(サポート体制など)

4 性格、防衛機制など

○伝えていく順番

こちらが組み立てる順番ではなくできること可能なことから伝えていく

こちらの指導が入らなかった時の判断

- ・違う考えを持っている
- ・理解できなかった(専門的なこと)
- ・面倒くさい

○面談の技法

・ほめる8、伝えたいこと2

・こちら側の自己開示はしすぎないようにする。

※大多数の子がうまく生きられるようにその子の未来のために私たちがいる。

3. 研修会

○ 経験者教諭研修会	53
○ 新任教諭研修会	62

経験者教諭研修会

研究経過

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	5月19日(水)	講師 岡部 正隆先生 (東京慈恵会医科大学 解剖学講座教授) 「見え方への配慮 -色覚のハナシ-」 ※遠隔講習	A 3 - I	51
2	6月16日(水)	講師 佐藤 英文先生 (東京家政大学 非常勤講師) 「身近な植物を使った遊びのヒント」 <経験者教諭研修会と合同>	B 3 - I	49
3	9月15日(水) ※中止	講師 若井 万友美先生 (キッズプランナー RAMU) 「コロナ禍だからこそ！わくわく園あそび&お家あそび ～シンプルで簡単、明日からすぐに活用出来る～」 <新任教諭研修会と合同>	B 3 - III	
4	10月20日(水)	講師 鈴木 敦子先生 (桐朋学園芸術短期大学・和光大学 非常勤講師) 「プロの保育者が目指す保育 ～大きな問題行動が生じないために必要なこと～」	D 3 - III	44
5	11月17日(水)	講師 佐藤 康富先生 (東京家政大学 東京家政大学短期大学部 児童学科 保育科 教授) 「10の姿を捉えながら記録し伝える要録の書き方」	D 2 - II	38
6	1月19日(水)	講師 村石 理恵子先生 (東京女子体育短期大学 児童教育学科 准教授) 「計画につながる幼児理解 ～「？」から始めよう～」	B 2 - II	39

◆研究参加園 (29 園)

江川幼稚園 川崎さくら幼稚園 浅田幼稚園 大師幼稚園
 梅園幼稚園 鹿島田幼稚園 小峰幼稚園 つぼみ幼稚園
 サクラノ幼稚園 田園調布学園大学 洗足学園大学 川崎めぐみ幼稚園
 梶ヶ谷幼稚園 新やはた幼稚園 初山幼稚園 さぎぬま幼稚園
 ひばり幼稚園 宮前幼稚園 宮前おひさ 宮崎台幼稚園
 潮見台みどり幼稚園 菅幼稚園 東菅幼稚園 玉川幼稚園
 丸山幼稚園 柿の実幼稚園 こうりんじ幼稚園 ちよがおか幼稚園
 百合丘めぐみ幼稚園

第1回 経験者教諭研修会

月 日 令和3年5月19日(水)

場 所 自治会館大会議室1~3

講 師 岡部 正隆先生

(東京慈恵会医科大学NPO法人・
カラーユニバーサルデザイン機構
CUDO)

テーマ:「見え方への配慮~色覚のハナシ~」

俯瞰図番号 A3-I

○色覚の呼称について

- ・色覚異常には、3種類ある。
先天性の分類で、1型色覚(L錐体の異常)
2型色覚(M錐体の異常)
3型色覚(S錐体の異常)
- ・色覚異常は、色の見え方は異なるが、視力や視野に問題はない。
- ・医学用語(眼科学用語)では、『正常色覚』以外を『色覚異常』と定義している。
しかし、一般社会において、『色覚異常』の『異常』という言葉と呼称の中に使うのは、不適切ではないかと議論されている。
- ・正常か異常かではなく、感覚の多様性の1つとして捉えるべきである。
では、異常という言葉を使わずに、どのようにして色覚のタイプを呼称するか。そこで、カラーユニバーサルデザイン機構からの提唱がある。

医学用語	カラーユニバーサルデザイン機構提唱
正常色覚	C型色覚 Common
1型色覚 (L錐体の異常)	P型色覚 Protanope
2型色覚 (M錐体の異常)	D型色覚 Deutanope
3型色覚 (S錐体の異常)	T型色覚 Tritanope

- ・程度分類はC型(正常色覚)とどれくらいの差異があるかを指標とし、軽度、中程度、強度の三段階に分けられる。

- ・今回の講義ではC型・P型・D型色覚に観点をおいて行った。

○色が見える仕組み

- ・光が角膜から水晶体を經由して、眼球の奥にある神経細胞でできた網膜にあたる。光によって網膜にある錐体が興奮して電気信号をつくり、その信号を脳に送る。
錐体にはL錐体(R)、M錐体(G)、S錐体(B)の3種類の異なる特性を持つものに分けられる。
各錐体は光の波長によってそれぞれ興奮し脳に刺激を伝え、色の三原色(RGB)の割合により色を識別することができる。

○P型・D型の人にはどう見えているのか?

- ・P型色覚の人は、L錐体の波長がM錐体に被っているため、強度によっては実質錐体が2つの状態になり、赤色と緑色の区別がつきにくい。
- ・D型色覚の人は、M錐体の波長がL錐体に似てきている。P型と同じく、強度によっては実質錐体が2つと変わらない状態になる。
P型と違いL錐体があるので、赤色が認識できないということはない。しかし、赤色と黄色を見分ける判断材料がL錐体の興奮の強さ加減でしか計れないため、見分けるのはむずかしい。
- ・P型色覚の人とD型色覚の人の共通点は、緑色と赤色の差が小さくなり、黄緑色と橙色や青色と紫色の区別がつきづらい。

○P型色覚・D型色覚の頻度

- ・男性だと20人に1人、女性だと500人に1人の割合で存在する。
- ・P型色覚やD型色覚の原因遺伝子は、X染色体に存在する。原因遺伝子を持っていないX染色体が優性遺伝するため、女性に少ない。
- ・しかし片方のX染色体が原因遺伝子である女性(保因者)は多く、日本人の10人に1人が保因者だと言われている。

- ・統計はP型・D型色覚は40人学級に1人はいるといことになる。
- P型・D型色覚の人の困難
 - ・社会がP型・D型色覚の人に対応してなく、見分けにくい色がさまざまな物に使われている。
 - ・色の名前を使うやりとりがわからない。
- カラーユニバーサルデザイン(CUD)
 - ・様々なタイプの色覚の人が検証して導き出した、どんな色覚の人にも使いやすいデザインや色の組み合わせ。
 - ・CUDの3つのポイント
 1. 多くの人に見分けやすい配色を選ぶ。
 2. 色を見分けにくい人にも、情報が伝わりやすいようにする。
 3. 色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする。
- 学校における配慮と指導
 - ・P型・D型色覚の生徒に配慮するため学校全体の環境改善が必要である。
 - ・教職員の意識改革による認識や、施設・教具のCUD化などの対応が有効である。
- 家庭における工夫
 - ・子どもの色覚を理解し、工夫するためには保護者が色覚のことを学ぶ必要がある。
 - ・家の環境をCUD化する。
 - ・持ち物の色名を教えておく。
 - ・『色名を教えてくれるアプリ』を活用する。
 - ・家族の理解、友人の理解が大切である。
- 求められていなくとも対応が必要
 - ・色覚にも多様なタイプがあり、色に配慮がない社会では情報弱者になる。
 - ・カミングアウトすることにメリットがなく、外見で分からないことから、配慮が必要な人自身が配慮を求めないことが多い。
- ・さまざまな色覚の人が同等の情報を受けられるようにするには、求められていなくとも、情報を発信する側の積極的な対応が必要である。

第2回 経験者教諭研修会

月 日 令和3年6月16日(水)

場 所 エポック中原

講 師 佐藤 英文先生

(東京家政大学 非常勤講師)

テーマ:「身近な植物を使った遊びのヒント」

俯瞰図番号 B3-I

○自然と接する

昔にくらべ、現在はこども時代に自然と触れ合うことが少なくなっている。世代が変わるにつれて、自然に対する知見が狭くなってきている問題がある。幼児教育の観点から見て、まずは保育者が自然に対する教育的価値の再認識をし、次世代につなげる必要がある。

子ども時代に草花遊びをすることにより、

- ・五感が育まれる。
- ・手先が器用になる。
- ・自然と関わる楽しさを知る。
- ・植生などの特徴を知る。

○草花あそびの伝承

草花あそびは石器時代からあるといわれている。最近では、環境の変化や生活様式の変化、あそびの変容により草花あそびを伝承する場がなくなり、文化がなくなっている。

○文化を守るうえで浮かび上がった課題

保育者や父母、地域住民が、自然と触れ合いながら子どもに伝えていく必要がある。しかし、K市幼稚園協会のアンケートによると、現状ほとんどの保育者が草花遊びを実践していなかった。理由の大半は草花が見つからなかったというものであった。

そこで浮かび上がった問題点は、

- ・保育者自身の草花遊び体験の欠如や自然を見る目の欠如。
- ・以前とくらべ植物の確保が難しい。
- ・環境の問題。

などが挙げられる。

以上のことをふまえて、今回の講義では保育者に草花あそびを実践してもらい、知見を広めてもらうことを目的としている。

○実践

1 2種類の草花あそびを実践した。

① スギナのどこ継いだ

スギナの節を3.4節残し、1カ所だけ節を引き抜き、また戻す。相手にどこの節を引き抜いたのか当ててもらう遊び。

② クズの葉の鉄砲

大きな音を鳴らす遊び。

③ クズの葉の噛み跡模様

クズの葉を折りたたみ、その上から歯形をつける。そしてクズの葉を開くと、とてもきれいな模様ができあがる。

④ マテバシイのキツネ

マテバシイの葉の葉脈の先端に八の字に切れ目を入れる。切れ目を折ることによってキツネやフクロウの様な形になる。葉を裏返すと色も変わる。

⑤ マテバシイの葉巻笛

マテバシイの葉で笛をつくる。硬い葉であれば代用可能である。大きさや太さを変えれば音色が変わる。

⑥ ミズキの何匹釣った?

茎の長いミズキを用意する。繊維や維管束を残したまま、外の茎だけを折っていく。何個つなげられるかのあそび。

⑦ クロマツの葉の相撲

クロマツの葉を使い、茎相撲の様な形で相手と勝負する。

- ⑧ カタバミの十円磨き
カタバミの葉には、酸が含まれているため十円を磨くとピカピカになる。
- ⑨ ヤハズソウのちぎりあそび
ヤハズソウの葉の葉脈はV字状になっている。葉っぱの先端を掴み、茎を引っ張るときれいにV字に切れる。
- ⑩ 猫じゃらしあそび
くすぐり合いや毛虫ごっこ、穂の真ん中を裂いてひげをつくったりする。
- ⑪ ススキの矢
ススキの葉の主脈に沿い、茎側から切れ込みを入れる。切れ込みの部分に手を添え、切れ込みの先端を引っ張ると主脈が飛んでいく。手を切らないよう注意が必要である。
- ⑫ カヤツリグサあそび
カヤツリグサの根と穂を切り離し茎だけの状態にする。茎を丁寧に裂いていき蚊帳をつくって遊ぶ。工夫次第で2人でも遊べる。

○まとめ

保育者自身が自然と親しみ、自然の中であそびを見つけていく。次第に自然に対しての知見が広くなり、経験を積むことで自然を見る目が補填されていく。自然を探し、積極的に遊んでみるのが、草花あそびの保存につながっていく。

第4回 経験者教諭研修会

月 日 令和3年10月20日(水)

場 所 自治会館大会議室1～3

講 師 鈴木 敦子先生

(神奈川県私立幼稚園連合会相談員・
臨床発達心理士)

テーマ：「プロの保育者が目指す保育 ～大きな問題が生じないために必要なこと～」

俯瞰図番号 D3-Ⅲ

○支援者スキルチェック

問題行動が生じた場面でどのような対応をとるかが重要である。支援者のスキルチェックでは、以下の8つの項目がある。

問題行動が生じた際に

- ・本人の性格が悪いと思っているか？
- ・やる気がない、頑張りが足りないと思っているか？
- ・保護者の養育態度の問題だと思っているか？
- ・言い聞かせが支援だと思っているか？
- ・このままでは将来困ると提示することが支援だと思っているか？
- ・自分で考える段階にない子に自分で考えさせていないか？
- ・クールダウンが支援だと思っているか？
- ・関わりすぎない引き算の対応ができていますか？

以上の項目に1つもチェックが付かないのが理想である。

○子どもによかれと行って行う対応

慣れれば大丈夫、数をこなせばできる、頑張ればできるという考え。

例 ホールにいくと走りまわったりする事象がある。それを喜んでいと受け取ること。走りまわるというのは、空間の圧力を受け、処

理できなくなっている状態である。

これらはパニック状態であり、走りまわるのを無理に我慢させようとすると、子どもはよけいに混乱し、更にパニック状態におちいる。

- ・パニックを繰り返したり、我慢を強いることは、子どもを消耗させる。

○理にかなった支援とは。

保育者の理想や希望を投影されがちだが、各子どもの発達レベルに合わせ、長い目で見て判断し、支援の方法を選択する。

最終的に、親や保育者が指摘をしなくても、みずから前にすすんでいく子どもに育ってくれるのが理想である。

○みずからすすんでいく子ども。

子どもをみずからすすんでいくように支援するには、2つの条件がある。

1. 準備(レディネス)が重要。

目標を達成するまでに、ゴールをこまかく設定し、各子どもがどの段階までできるのかを明確にし、脳機能の発達を見きわめる。

2. やる気がある、諦めない。

叱られてばかりではやる気は生じず、大きさにほめても大きくやる気は生じない傾向にある。そこで、保育者はまわりを取り巻く環境に目を向けるべきである。

子どもが安心できる環境をつくり出し、安定した環境(ほどよい刺激)で過ごせるとよい。

以上の2つの条件がそろってこそ、子どもは生き生きと育つ。(個人差に注意)

○みんな違ってみんないい、というけれど。

各個人により、発達の速度や発達具合の差がある。個人の能力でも発達のアンバランスが目立つ場合もある。

環境づくりにおいて、労力を使わなくてもで

きるようなセッティングが重要である。

○保育・教育論の転換の必要性。

集団をまとめる力が重視されがちだが、個人の発達の視点も重要である。各個人の脳の成熟度合いへの視点の欠落により、問題を漠然としたものに求める傾向がある。

○対応のむずかしい子どもの育て方。

トレーニングや頑張りで子どもを消耗させるよりも、解決案を提示し、対処法を身につけることで不得意なことに対する安心感・安定感を養う。『安定』と『工夫』で未来を切り開く力をつける。

○苦手に怯まない子どもに育てる。

幼少期は、自己コントロールができない時期である。支援はその時期にパニックを起こさせないことで安定させ、脳の成熟を促す行為である。

そのため、子どものようすを見て、無理なくハードルを上げていく必要がある。

パニックを起こさせないことが大事である。

第5回 経験者教諭研修会

月 日 令和3年11月17日(水)

場 所 自治会館大会議室1～3

講 師 佐藤 康富先生

(東京家政大学 教授)

テーマ：「10の姿を捉えながら記録し伝える
要録の書き方」

俯瞰図番号 D2-2

○要録の形式

「幼稚園及び特別支援学校幼稚園における指導要録の改善について」平成30年3月30日
で以下のように明記された。

「指導上参考となる事項」について、これまでの考え方を引き継ぐとともに、最終学年の記入に当たっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して幼児に育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入することに留意するよう追記をした。

平成29年に幼稚園の教育要領が変わったことにより、要録に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が加わった。

○要録の目的

- ① 幼児教育の意味を伝える。
- ② 小学校の指導につなげる。
- ③ 保育者の振り返り。

○要録に10の姿が加わった意義

10の姿とは「五領域」をより細分化したものである。

- ・個々の子どもの育ちを、その後の指導に生かす。
- ・育ちの意味の明確化、共有化。

○協調性を考える

保育者同士で協調性に関するワークを行った。

- ① とよりの保育者とジャンケンをし、勝った方が質問できる機会を得るというルールで、お互いの情報を交換した。
- ② とよりの机と合併し、4人1グループをつくり、他己紹介を行った。
- ③ 「ほかのグループが考えられないもの」をテーマとして紙コップを27個使い創作した。
- ④ 上記の②と同じ要領で8人グループをつくり、紙コップを54個使い「できるだけ高く積み上げる」ことを目標に取り組んだ。
- ⑤ 最後に8人グループを3つ集め、紙コップを162個使い自由に作品をつくった。
・以上のワークを通じて、保育者自身が協調性を遊び、体験した。

○要録の基本的なルール

- ① 要録は子どもが小学校を卒業するまで保存しておく。
- ② 個人情報流失防止を徹底する。
- ③ 提出は要録の原本のコピーや抄本を手渡し、簡易書留で送る。
- ④ 記入に当たっては、黒色ペン・ボールペン・修正液・パソコン作成は禁止である。訂正は二重線で行い、保護者にも説明責任がある。

- ・要録は重要な公的文書であることを認識する。

○記入に当たってのポイント

- ① 子どもの具体的な姿を伝える。
- ② その子のよさを伝える。
- ③ 1文を長くせず、簡潔に伝える。
- ④ 子ども主体を表現する。
- ⑤ 個人情報は記入しない。
- ⑥ 園でしか通用しない表現は避ける。

○10の姿の記述について

① 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の記入ポイント

- ・子どもの姿を10の姿と照らし合わせる。
- ・達成度として書かない。
- ・10の項目すべてを書く必要はない。

② 育ちの記入のポイント

- ・年度当初と比較する。
- ・興味を持って、努力している姿を伝える。
- ・エピソードを加えて簡潔に記入する。

○育ちの記入のプロセス

週日案、個人記録と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、領域のねらい、内容を要録にまとめる。

○まとめ

- ① 平成30年、要録に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記入することが義務づけられた。
- ② 要録は幼稚園時代の子どもの育ちをその後の指導に活かしてもらうためにある。
- ③ 要録は公的重要な文書であり、その取り扱いに注意する。
- ④ 記入に当たっては、子どもの姿と10の姿を照らし合わせて書く。
- ⑤ エピソードは簡潔に、その子どもが努力している点を伝える。
- ⑥ 要録の下書きは、はやめに取り組み、主任や園長先生に見ていただき、指導を受ける。
- ⑦ 要録を記入しながら、子ども達の成長を振り返るとともに、みずからの保育の歩みを振り返り、次年度に反映させる。

新任教諭研修会

研究経過

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	5月19日(水)	講師 小島 久美子先生 (川崎市総合リハビリテーション推進センター 企画・連携推進課 担当係長) 「特別な支援が必要?～共に学ぶには～」	D 3- I	68
2	6月16日(水)	講師 佐藤 英文先生 (東京家政大学 非常勤講師) 「身近な植物を使った遊びのヒント」 ＜経験者教諭研修会と合同＞	B 3- I	86
3	9月15日(水) ※中止	講師 若井 万友美先生(キッズプランナー RAMU) 「コロナ禍だからこそ!わくわく園あそび&お家あそび～シンプルで簡単、明日からすぐに活用出来る～」 ＜経験者教諭研修会と合同＞	B 3- III	
4	10月20日(水)	講師 斎藤 二三子先生(幼児教育研究家) 「自らを磨くー子どもの心と言葉をはぐくむために」	B 1- I	85
5	11月17日(水)	講師 NPO法人 JAEA(ジャイア)日本災害救護推進協議会 「子ども一時救命講座 <アナフィラキシー・ショック>」	A 2- I	74
6	1月19日(水)	講師 細田 淳子先生 (東京家政大学 児童学科教授) 「リズムにノッテ楽しむ幼児の器楽表現 ー リズム奏法とイメージ奏法ー」	E 2- I	60

◆研究参加園(37園)

江川幼稚園	川崎さくら幼稚園	川崎協立幼稚園	浅田幼稚園
ゆりかご幼稚園	東三輪幼稚園	梅園幼稚園	女躰神社こども園
みゆき幼稚園	小峰幼稚園	元住吉こぼと幼稚園	平間幼稚園
サクラノ幼稚園	新作やはた幼稚園	若竹幼稚園	諏訪幼稚園
たちばな幼稚園	川崎めぐみ幼稚園	川崎たまがわ幼稚園	津田山幼稚園
梶ヶ谷幼稚園	ひばり幼稚園	さぎぬま幼稚園	菅幼稚園
丸山幼稚園	川崎青葉幼稚園	宮崎台幼稚園	宮前おひさまこども園
潮見台みどり幼稚園	玉川幼稚園	寺尾みどり幼稚園	東菅幼稚園
百合丘めぐみ幼稚園	宿河原幼稚園	柿の実幼稚園	初山幼稚園
ちよがおか幼稚園			

新任教職員研修・歓迎会

月 日 令和3年5月12日

会 場 エポックなかはら

講 師 飯田 陽子先生

(一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 認定ファシリテーター)

テーマ：「幼稚園教諭のためのアンガーマネジメント

怒りの感情と上手に付き合おう
～子ども達の笑顔のために」

俯瞰図番号 B1 - I

参加者

アンガーマネジメントとは、アンガーは怒り、マネジメントは後悔をしないことをあらわす

怒る必要のあることは上手に怒れ、怒る必要のないことは怒らないようになること
怒らない人になることではない

怒りとは、感情表現で人間にとって自然な感情の1つ。怒りのない人はいないし、なくすことも不可能。機能・役割は、自分の身を守るための防衛感情。

問題となる4つの怒り

強度が強い - 小さなことで激昂する。
一度怒ると非常に強く怒る。
止まらない

持続性がある - 根に持つ。
思い出し怒りをする。

頻度が高い - しょっちゅうイライラする。
カチンとくることが多い。
ずっと不機嫌。

攻撃性がある - 人を傷つける。
自分を傷つける。
物をこわす。
無視をする。

怒る時の3つのルール

- ・人を傷つけないこと
- ・自分を傷つけないこと
- ・物をこわさないこと

子どもも大人も同じ。3つのルールを守れば怒ってもよい

私達を怒らせる物の正体

〇〇とはこうあるべきという理想と現実とのギャップ

無駄に怒りを出さないように自分の心と体を知る

アンガーマネジメントの3つのコントロール

1. 衝動のコントロール (6秒)

- ・イラッとするたびに点数をつける。
点数をつけると客観視できる。
10点は人生最大の怒り。

- ・深呼吸して6秒たつのを待つ。
冷静な対処が出来る。

- ・落ちつく言葉をとる。

2. 思考のコントロール (三重丸)

- ①境界線を大きくする努力
- ②境界線を一定にする努力
- ③境界線を見せる努力 (具体的に伝える)

- ・「まっいっか」を広げる。
- ・②と③が怒るか怒らないかの境界線、その時は上手に怒る。

3. 行動のコントロール (分かれ道)

- ・自分達の力で変えられること、変えられないことがある。
- ・過去と他人は変えられない。

4つの分かれ道がある (4つのゾーン)

- ①今すぐ取り組むべきこと
 - ・どれだけ変われば気が済むかゴールを決める。

研修会

②余力がある時に取り組むべきこと

- ・今すぐに変える必要はないので、余力のある時に取り組む。

③変えられないことを受け入れる

- ・現実的な選択肢を探す。
- ・変えられないことを受け入れる。

④放っておく、関わらない、見ない

- ・変えられないので、見ずに放っておく

この4つのゾーンに分ける時にビッククエクションを思いうかべて分ける

ビッククエクションとは

- ・その行動が長期的に見て、自分や相手にとって健康で幸せであるか？

- ・怒りの連鎖を断ち切ろう。

すべての人が自分の感情に責任を持てば、私達は怒りの連鎖を断ち切ることが出来るはず。

怒りの感情の特徴（性質）

- ①高いところから低いところへいく
- ②身近な対象へは強くあらわれる
- ③伝染してしまう
- ④はけ口を探してしまう
(八つ当たりをしてしまう)

自分の感情をコントロールして、怒りの感情と上手に付き合い、保育に役立てて欲しい

第1回 新任教諭研修会

月 日 令和3年5月19日

会 場 国際交流センター

講 師 小島 久美子先生
(総合リハビリテーション推進センター 企画・連携推進課)

テーマ：「特別な支援が必要？
～共に学ぶには～」

俯瞰図番号 D3-I

障害児支援を取り巻く状況

障害児関係の相談支援

サービス利用計画を越えている (108%)

制度、サービスを受ける人数がこの数年で
とても増えている

軽度で相談する方が7割のため、利用待ちが長い。そのため、軽度者支援の施設が10月1日に開業予定。発達相談支援センターという名称になる予定。療育センターという名称は利用しづらいので、行きやすい名称になる。

待機期間

南部療育センター：9～12ヶ月

中央療育センター：3ヶ月

西部療育センター：3ヶ月

北部療育センター：3ヶ月

南部療育センターの待ち期間が長いのは、薬を処方してくれるため

川崎市南部療育センター

H26年月民営化

0～18歳が利用

- ・地域支援 ・通園 ・診療、外来
- ・川崎区、幸区に住んでいる方が利用

療育理念

地域性：子どもと家族が望む生活から離れることなく、地域に密着して支援する
総合性：0～18歳のすべての発達に何らかの心配がある子どもが対象

医学・心理・教育・社会・工学的
技術を総合的に活用する

専門機関のみならず、保健・医療・福祉・介護・教育・行政・近隣住民・保育園・幼稚園などと連携し包括的に支援する

専門性：専門的リハビリテーション技術を確保し、活用する

継続性：切れ目のない支援をライフステージ毎に変化する課題に対応しながら支援を展開し、成人の支援者に繋いでいく

通園（児童発達支援事業）

- ・併行通園が多い
- ・幼児3人に1人の保育士・児童指導員を配置

内容

1. 給食 段階に応じた食形態
 - ・食事箋発行（摂食外来受診）
 - ・アレルギーにも可能な限り配慮
2. 送迎：マイクロバス5台で対応
3. 行事：誕生会、お楽しみ会など
4. 兄弟保育：非常勤保育士で対応

診察外来

内容

- ・小児科、児童精神科、小児神経科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、歯科検診、眼科検診、摂食外来

研修会

- ・個別訓練（OT／PT／ST）
- ・専門スタッフによる個別評価、訓練及び相談
- ・心理相談
- ・療育講座
- ・外来グループでの療育

職員構成

- ・医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師

子どもをどうみるのか？

こだわりを考えよう

こだわり＝安心・安定

精神的に脆弱→考え方のバラエティーなし

脳で考えてみると→神経シナプスの枝がない

→次の手立てなし

とらえ方・視点を変えてみよう

集中力がない→いろいろなことに興味がある

こだわりがあってそれしかしらない→何時間も同じことができる

走りまわる→元気で体力がある

こだわりを止めさせるのではなく、生活に困らない行動に変えていく、生きやすい様に援助する

発達障害は遺伝

親が発達障害の可能性

（子どもが障害児の場合）

家族全員が障害の可能性あり

母親1人が大変になるので家族全体支援が必要

第2回 新任教諭研修会

月 日 令和3年6月16日

会 場 エポックなかはら

講 師 佐藤 英文先生

(東京家政大学 非常勤講師)

テーマ：「身近な植物を使った遊びのヒント」

俯瞰図番号 B3-I

子どもを自然に接しさせることはむずかしい。草はらも野原もない中、どう自然に接しさせるか。幼稚園・保育園の先生達が伝える。あまり子ども達は、植物の種類を知らない。ほとんどの子が草花あそびをしたことがない。植物あそびをしたくても、園の近くに植物がない。実際にやってみることはむずかしい。まず先生が自然に関心を持つことが大切。

草花あそびとは身近な自然と係わって楽しさを知ったり、植物の名前や特徴を知ったりすること。手先が器用になる。発見・発明に繋がる。伝統的なあそびを伝える。形・色・かおり音、五感を使い、それを刺激することができる。身近な植物に価値が生まれる。化学・芸術・宗教に影響を与える。

○スギナのどこ継いだ

スギナの主軸にはいくつかの節があり強く引っ張るとそこから茎が抜ける。茎が抜けたあとを見ると筒状になっていて、ここに再び茎を差し込むと元通りに戻ったかのように見える。これを使って、どこでつないだかを当てっこして遊ぶ。

○クズの葉の鉄砲

なるべくやわらかい葉を使う。親指と人差し指で輪っかにした上にクズの葉を置いて反対の手の人差し指で、その輪っかの中に押し込んで、押し込んだ方の手の平で輪っかの上を叩くと空気が圧縮されて大きな音が出る。

○クズの葉の噛み跡模様

幼稚園児でもできる、楽しいあそび。緑の方を上にして半分に折る。そして四つに折り、角を中心にもう一回折る。大きい葉っぱならもう一回折る。手前から少しずつ噛んで歯形をつけ、最後に広げるときれいな模様になる。幼児だったら、乾かして台紙に貼ると作品になる。

○マテバシイのキツネ

園児でもハサミが使えればできる。ハの字にハサミで切れ目を入れるだけ。紅葉でやるととてもきれい。(色がついていると)

○マテバシイの葉巻笛

葉の先端から根元に向かって小指の太さくらいに、くるくる巻く(折らないように)きっちり巻いて片方の端をつぶす。つぶした所を口に入れておもいきり吹くと“プー”という音が出る。深くくわえると低く、浅くくわえると高く音が出る。

○ミズキのおめん

ミズキ科の木ならできる。葉っぱを使う。2つに折って爪を使う。穴をあけて顔を作る。子どもが作った物をずらっと並べると、いろいろな表情があって面白い。

○ミズキの何匹釣った？

ミズキの茎を折って、ひっぱると白い糸が出てくる。少し間隔をあけて折っていく。何個切らずに作れるか競争する。茎が終わったら葉っぱも使ってOK。イライラするとすぐに切れる。

○オオバコの相撲

半分に折って、もう一人の人のオオバコをひっかけて、ひっぱって相撲をし、勝負をつける。切れた方が負け。オオバコは、たくさんあそび方がある。公園などにたくさん生えているので手軽に遊べる。

研修会

○カタバミの十円磨き

カタバミには「シュウ酸」が含まれているので酸の力で十円玉の錆が取れてきれいになる。葉っぱをもんで十円玉を磨く。

○ヤハズソウのちぎりあそび

茎は根元で分枝して立ち上がるか、地表をやや斜めに伸びて次第に立ち、先端は斜め上に伸びるようになる。茎は細いが硬くて節があり、節ごとに葉が出る。葉脈が矢筈状に見え、これを引きちぎると矢筈型に切れる。

○ネコジャラシのキジ笛

両手の親指を合わせると指の間に隙間ができ、そこに細く千切った葉を縦に挟んで息を強く吹き込むと甲高く鋭い音が出る。ひっぱる力を人差し指などで調節すると、音程の変化をつけることもできる。ネコジャラシは十種類くらいあそび方がある。

○ススキの矢（セイバンモロコシ）

中央の葉脈とその両側の部分に分け、根元側から四～五cmくらい裂く。中央脈以外の両側の部分を二枚ともつかんで人差し指と親指の間に挟んで下（手の平側）から勢いよく引くと手の甲側に中央脈の部分が矢のように飛び出ます。

○かやつり草

茎が三角。三角の茎は爪をたてると裂くことができる。二人でひっぱっていく。上手につれたら仲良し。伝統的なあそび。

自然に関心を持って、いろいろな小さいことを積み重ねていくと面白い。そんなことが自然と親しむということ。

第4回 新任教諭研修会
 月 日 令和3年10月20日
 会 場 国際交流センター
 講 師 斎藤 二三子先生 (幼児教育研究家)
 テーマ:「自らを磨くー子どもの心と言葉を
 はぐくむためにー」
 俯瞰図番号 B1-I

お寺のおしょうさん手あそび

「お寺のおしょうさんが、かぼちゃの種をまきました。芽が出てふくらんで、花が咲いてかれちゃって、忍法使って空飛んで、東京タワーにぶつかって、くるくるまわってジャンケンポン」

地方によって、少しずつ歌詞が違う。東京タワーを知らない地方の年長児が考えた歌詞

「お寺のおしょうさんが、かぼちゃの種をまきました。芽が出てふくらんで、花が咲いてかれちゃって、忍法使って空飛んで、ウサギになって、パンダになって、コアラになってジャンケンポン」

心の教育

触れ合い教育 (胎教から幼児期まで)

15歳までにしておきたい心の教育

感動できる心を育てる

無感動な人間が多い昨今、美しいものを見て美しいと感じる心

- ・思いやりを育てる (ケンカと弱者を労る心)
- ・感受性を育て、喜怒哀楽を放言できる心

第1段階 人間の基礎を作っていく

3～6歳 立つ、歩く、話す等
 3歳までに、形成されていく
 だからとても大切
 70%感性が育つ

第2段階 人間の基礎を充実させると共に

3～10歳 大人の基礎を学ぶ
 我慢すること、相手を思いやる

こと、自分以外の人達を意識していく。

20%感性が育つ

第3段階 大人の基礎を充実させ自己を伸ばしていく時期

10～

20歳 5%感性が伸びる

社会人になって3年間で残りの5%の感性を育てる。職場で自分を育てていく。時には反省をする。

言葉の教育

幼児にとって保育者はすべての言葉のモデルとなる。

保育者自身の言語感覚を磨き、感性豊かにしていく。

保育者の言葉は、幼児にとっての生きた教材である。幼児は保育者の日常生活の中での言葉をお手本にして、自分達の言葉を形成していく。

保育者はその場にふさわしい整った言葉使いをすること。

- ・早口、軽い、不明瞭、独特な語尾のはね上がりに注意
- ・あれ、これ、それ、などの指示代名詞をできるだけ使わない
- ・一語文ですませない
- ・位置をあらわす言葉、一番育たない言葉は右左

保育者の意図的な保育活動としての発語能力が必要であり、目的にそったタイミングと言葉の見きわめが必要

保育者には子どもを理解し、信頼関係を築き、環境を構成したりするなどの役割がありそれらの中で保育者の言動の在り方が大切である。

言語文化・言語芸術の担い手になる

幼児にとって言葉あそびや絵本・紙芝居などの実践は、言語の習得だけではなく言語文化言語芸術への導入、知的教育として重要な意味を

研修会

持つ。子ども達と一緒に手あそびなど考え楽しむ。

日々子どもへの関わりマナーレッスン

- ①保育者自身の言葉遣いに気をつけること。
- ②乳児には心から寄り添い子どもの行動言語化してあげること
- ③言葉の暴力を与えないこと
- ④子どもを自分の雛形に収めようとしないこと
- ⑤1対1で話し合う時は、自身の目線を子どもの目線まで下げること
- ⑥大勢に話す時は万遍なく見渡しながらかつこと
- ⑦よくお話を聞いてあげること
- ⑧自分の配慮不足で子どもに迷惑をかけてはいけない
- ⑨自分の失敗は素直に認め子どもに謝ること
- ⑩子どもとの約束は必ず守ること
- ⑪保育室の整理整頓をすること

幼児教育とは、幼児がその生涯にわたる人間形成の基礎を養う重要な時期である。

幼稚園教諭は、幼児教育に携わるプロとしてプライドを持ち、幼児の内面から理解し、総合的な指導力、小学生との連携をはかり、保護者および地域社会との関係を構築する力などの専門性を持たなければならない。

そして職場においても、経験豊かな職員とエネルギーな若い職員との調和の取れた職場とするため、お互いの人間性を認め合い日々保育にあたらなければならない。そのため、日々研鑽しよき保育者を目指す。

失敗を恐れない、間違えたらごめんなさいそして子ども達にもしっかり間違えたらごめんなさいを言えるようにして欲しい。

第5回 新任教諭研修会

月 日 令和3年11月17日

会 場 国際交流センター

講 師 石津 猛先生
(災害救護推進委員会理事長)

テーマ：「子ども一次救命講座
(アナフィラキシー・ショック)」

俯瞰図番号 A2-I

応急手当の範囲

けが人や傷病者を正しく救助し、医師または救急隊員に引き継ぐまでの手当。

救助者が守るべき範囲

1. 自分自身の安全を確保
2. 原則として医薬品は使用しない
3. あくまでも医師または救急隊員に引き継ぐまでの応急手当にとどめる
4. 死亡の判断は、医師以外には行えない
(最後まで諦めない)

アレルギーによる時間対応について

アナフィラキシーの特徴の1つは、短時間で症状があらわれる。症状が出るまでの時間はアレルギーや患者さんによって差がある。

薬物や蜂毒は直接体内(血液中)に入るためはやく症状が出る傾向がある。これに対して食べものは胃や腸で消化されるまでに時間がかかるため、症状が出るまで薬物や蜂毒よりは時間がかかる。

アナフィラキシーが原因で心停止に至った例の心停止までの平均時間は、薬物で5分、蜂毒が15分、食物では30分といわれている。
(アナフィラキシーが全て心停止に至るわけではない)

蜂毒の分類には、他の昆虫や小動物も含まれる。

食物の分類の中には、飲みものも含まれる。

アドレナリン(エピペン)の効果

症状の回復は15分~20分、その時間内に病院に緊急搬送する手立てを整える
エピペンを打ったら、必ず病院に行く。

アナフィラキシー症状の判断基準、エピペンの適応

日本小児アレルギー学会のガイドライン
エピペンが処方されている園児で、アナフィラキシー・ショックを疑う場合、下記の症状が1つでもあれば使用する。

消化器の症状

- ・繰り返し吐きつづける
- ・我慢できないおなかの痛み

呼吸器の症状

- ・のどや胸が締めつけられる
- ・声がかすれる
- ・犬が吠えるような咳
- ・持続する強い咳き込み
- ・ゼーゼーする呼吸
- ・息がしにくい

全身の症状

- ・唇や爪が青白い
- ・脈を触れにくい
- ・意識がもうろうとしている
- ・ぐったりしている
- ・尿や便を漏らす

判断の基本となるヒヤリング

先ずは、命に関わりのある、アナフィラキシーを疑って、症状が重篤化する前に、聞き取りをすすめる。

- | | |
|-----|------------------------------------|
| ①原因 | 「どうしたの？」
「何があった？」
「虫に刺されたの？」 |
| ②訴え | 「どこか苦しいの？」
「痛いなの？」 |

研修会

- 「何か言いたいのか？」
- ③最終飲食 「今、何を食べたの？」
「何か飲んだの？」
「食べたり飲んだりしたのは
何時頃？」
- ④病歴 { 保護者から預かっている管理
票で事前にチェック
- ⑤アレルギー
- ⑥薬 「エピペンを持っているの？」
「どこにあるの？」
- ・本人が自分で注射できるか否かの意思を確認する。
 - ・できれば、1本は予備に園で預かっておく。

エピペン投与（注射）時の留意点

注射は、太ももの前外側以外のお尻や腕などにはできない、園児で太ももが細い場合は必ず医師にどこに打てばよいか確認をする。

ズボンやスカートの上など衣服の上からも打てる。（ポケットは避ける）

薬事法の制限により、他人のエピペンは使用不可。

エピペンの使用手順

1. 救急車の要請
周囲の者が事前に119番に緊急通報
↓
2. エピペンの使用
↓
3. 注射部位をもむ
約10秒ちかく部位をもむ
血液感染のリスクを避けるため、血が染み込まないビニール手袋などを使用する。なければ、本人の手を使う。
↓
4. 時間の記録
注射した時間をエピペンに書く
(マジックで)
↓
5. 安静を保つ

- ↓
6. 容体を観察、記録
ショックの発症時から容体、変化など時系列に記録する。
↓
 7. 安全の配慮
周囲の子ども達にも心のケアをする。
↓
 8. 救急車の誘導
↓
 9. 必要事項の伝達
↓
 10. 救命手当て
救急隊員が来る前に、万一反応と呼吸がなくなれば、直ちに心肺蘇生法を開始する。

令和3年度 川崎市幼稚園協会研修部員

担当副会長	嶋 崎 正 浩 (津 田 山 幼 稚 園)	
研 修 部 長	石 渡 宏 之 (江 川 幼 稚 園)	
分科会	担当責任者	研修部員
特別支援教育研究会	佐保田 ともこ (東 菅 幼 稚 園)	琴賀岡 宏 美 (宮 内 幼 稚 園) 持 田 啓 太 (有馬白百合幼稚園)
子どもと共に育つ 保育者研究会	薄 井 珠 預 (梅 園 幼 稚 園)	小 川 哲 也 (川崎ふたば幼稚園) 後 藤 達 朗 (有馬白百合幼稚園) 山 田 賢 一 (若 竹 幼 稚 園) 鈴 木 智 士 (み ゆ き 幼 稚 園)
3 歳 児 研 究 会	上 村 瑞 枝 (ゆりかご幼稚園)	佐 藤 奈 保 子 (健爽学園ゆりかご幼稚園) 仁 藤 一 成 (川崎こまどり幼稚園)
幼 児 教 育 ・ 10 年 教 諭 研 究 会	山 口 倫 (さぎぬま幼稚園)	岡 本 量 寿 (こうりんじ幼稚園) 鈴 木 正 宏 (たちばな幼稚園) 里 薫 子 (洗足学園大学附属幼稚園)
免 許 状 更 新 講 習	伊 藤 悠 貴 (丸 山 幼 稚 園)	志 村 富 子 (サクラノ幼稚園) 佐 藤 教 寛 (大 楽 幼 稚 園)
経 験 者 教 諭 研 修 会	鈴 木 淳 (川崎めぐみ幼稚園)	野 口 友 子 (平 間 幼 稚 園) 平 山 諒 典 (菅 幼 稚 園) 永 田 莉 奈 (丸 山 幼 稚 園)
新 任 教 諭 研 修 会	平 岡 義 章 (川崎たまがわ幼稚園)	多 田 政 彦 (大 師 幼 稚 園) 金 井 岳 (小 鳩 幼 稚 園) 和 田 武 士 (太 陽 第 二 幼 稚 園) 森 清 美 (つ ぼ み 幼 稚 園)

◎令和3年度神奈川県私立幼稚園連合会 研修事業部・研究部員 (川崎地区)

研修事業部員	石 渡 宏 之 (江 川 幼 稚 園) 志 村 雄 治 (白 山 幼 稚 園) 山 口 倫 (さぎぬま幼稚園) 山 田 賢 一 (若 竹 幼 稚 園)
研究部員	上 村 瑞 枝 (ゆりかご幼稚園) 佐保田 ともこ (東 菅 幼 稚 園) 志 村 富 子 (サクラノ幼稚園) 多 田 政 彦 (大 師 幼 稚 園)

